



事業計画及び成長可能性に関する説明資料

株式会社 フルッタフルッタ

Update 2024.06

事業計画及び成長可能性に関する事項の更新趣旨

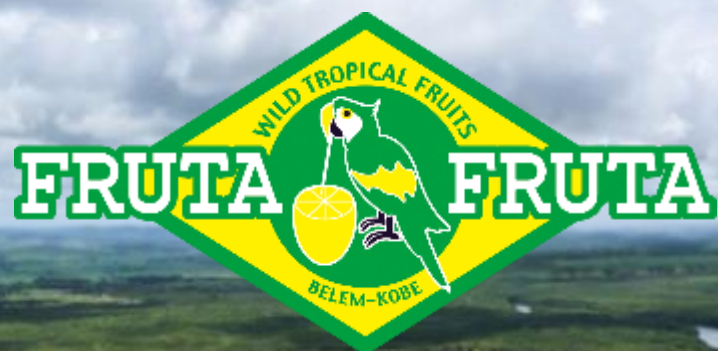
当社は、2024年6月14日開催の取締役会において、2023年11月13日に決議したEVO FUNDを割当予定先とする第11回乃至第15回新株予約権の発行に係る資金用途の変更を決議したためご説明を行うことと、年度ごとの定期的な開示を目的として更新することといたしました。

会社概要と事業内容	• • • • • • • • • • • • • • • •	4
当社ビジネス取り巻く環境	• • • • • • • • • • • • • • • •	15
競争優位性	• • • • • • • • • • • • • • • •	25
今後の事業計画	• • • • • • • • • • • • • • • •	31
2024年3月期の進捗と短期計画	• • • • • • • • • • • • • • • •	45
中長期計画	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	54
サステナビリティの取り組み	• • • • • • • • • • • • • • • •	63
リスク情報	• • • • • • • • • • • • • • • •	66

会社概要と事業内容

Company Information





Our Philosophy

自然と共に生きる

フルッタフルッタが目指すのは、経済と環境が共存共栄する持続可能な社会の実現です。アグロフォレストリーはそのソリューションの一つであり、私たちはその恵みであるアマゾンフルーツを革新的な商品にかえてお届けし、アグロフォレストリーの発展に貢献するとともに、お客様に本物の美と健康をご提供してまいります。

Our Purpose

経済と環境が共存共栄する 持続可能な社会の実現

ブラジル・アマゾンに渡った日本人移民が創立したトメアス総合農業協同組合（CAMTA）と出会い、彼らが確立した栽培手法である「トメアス式アグロフォレストリー」（混農林法）に当社の長澤が共鳴したことが創業のきっかけです。

アグロフォレストリーの拡大を促し、荒廃地を緑に変えていきたい。森をつくる農業「アグロフォレストリー」の発展にビジネスの力で貢献し、経済と環境が共存共栄する持続可能な社会の実現を目指します。

会社情報

経営陣

財務指標

設立 **2002**年

従業員数(1) **23**名

代表取締役社長
執行役員CEO 長澤 誠

取締役 Michael L.Lerch

社外取締役 鈴木 朗広

売上(2) **1,136**百万円

純利益(2) **△306**百万円

売上CAGR(3) **8.79%**

自己資本比率(2) **59.1%**

(1) 2024年3月期末実績（有期雇用含む）

(2) 2024年3月期実績

(3) 2020年3月期から2024年3月期の年平均成長率





アグロフォレストリーは 『生物多様性』と『CO₂削減』を両立する ソリューション

「ネイチャーポジティブ」は、企業・経済活動によって生じる自然環境への負の影響を抑え「生物の多様性を維持する」という従来の発想から大きく踏み込んで、「生物多様性を含めた自然資本を回復させる」ことを目指す新たな概念であり、近年、企業経営において重要性を増しています。

「アグロフォレストリー」は、アマゾンの荒廃した土地に、多様なフルーツや樹木を植えていく“森を作る農業”です。当社は経済の力で環境を再生する「自然資本主義」の実践企業として健康と環境に貢献する事業を推進しています。



"Agroforestry"

「森をつくる農業」



壊さず、加えず、そのままに。

フルッタフルッタの商品は「ナチュラル・新鮮・おいしい・本物」がモットーです。

当社は市場側のインフルエンサーとしてそれを情報発信していくことが大切な使命の一つです。



壊さず、加えず、そのままに



リテール事業部門（自社ブランド）

天然のサプリメントであるアマゾンフルーツを素材にして、独自のフードテックを使い、「自然の栄養素を壊さず届ける」ポリシーのもと、こだわりの製品を各種小売店に販売しています。



業務用事業部門

外食チェーンや飲食店、食品メーカーに対して、業務用製品や原料を販売しています。冷凍アマゾンフルーツピューレに限らず、高品質な濃縮エキスやフリーズドライ等の加工原料を取り扱っております。



ダイレクトマーケティング事業部門

自社ECやプラットフォームを通じて、自社商品販売や最新の情報発信、二酸化炭素削減量の可視化ポイント制度など、小売店ではカバーしきれないエリアやサービス内容を充実させています。自社ECにおいては自社でしかできない、気分や栄養素に応じた商品提案にも取り組んでいます。



海外事業部門

アグロフォレストリーによる産物をESG訴求の出来るアグロフォレストリー原料による付加価値創出を実現させる商品に使用されます。カカオ豆が中心ですが今後胡椒、パーム、アサイーなども展開していきます。



「アサイーの事業展開」と「サステナブルマッチングプラットフォーム構築」の2軸で業績拡大を図る。

アサイーの事業展開

2023年より特に顕著に表れている国内需要の盛り上がりに対して、日本におけるアサイーを用いた事業の先駆者として応えるべく、国内アサイー事業にリソースを集中させることで、最大限の供給を行う。

さらに、国内のみならず、アジアを中心とした世界に向けて、アサイーの健康価値を普及させるとともに、原料・製品を販売していくことで、大きな成長が見込まれるアジアへ事業を拡大していく計画。



サステナブルマッチングプラットフォーム構築

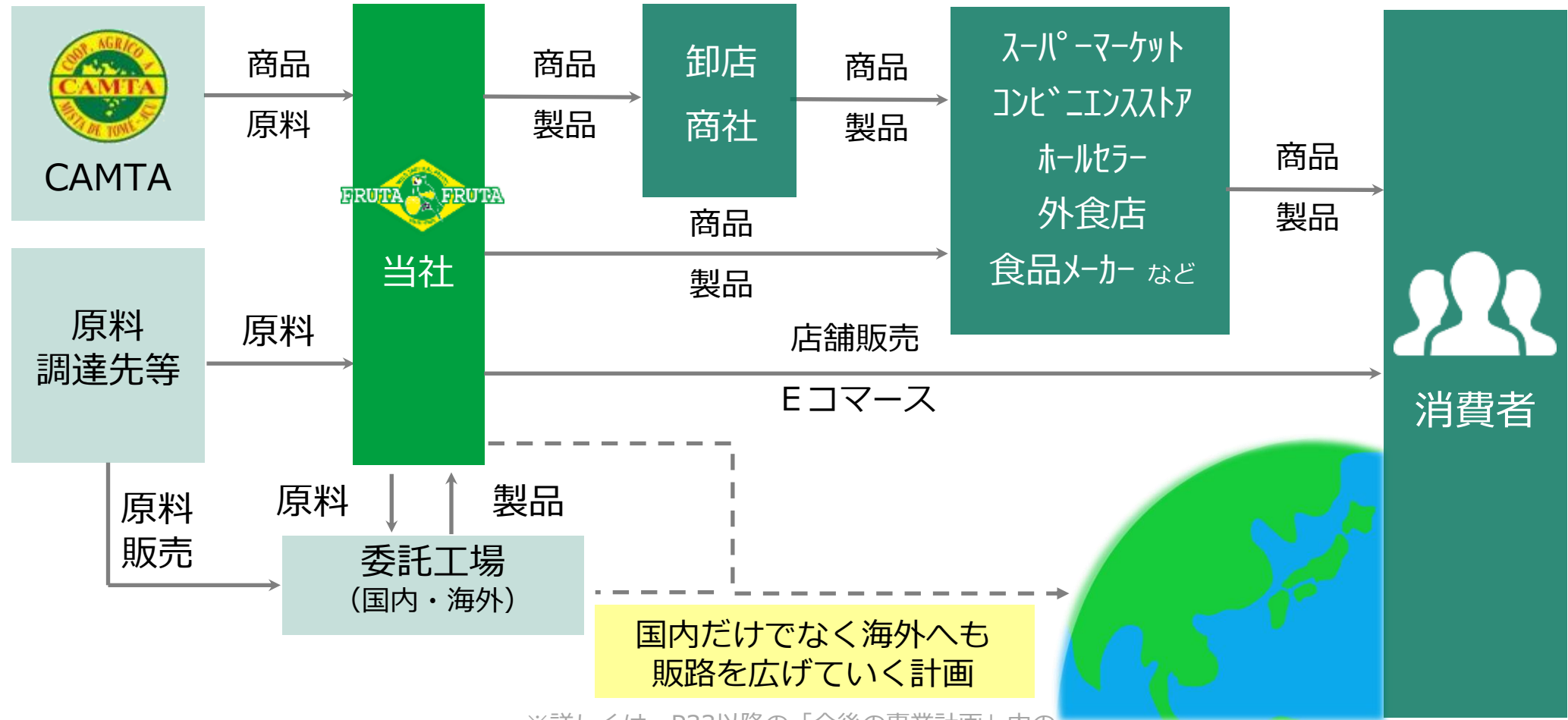
アグロフォレストリーで栽培された作物をはじめとした、サステナブル商材に特化して取引するサステナブルマッチングプラットフォームの開発を行う。取引高が増加することで収益性が向上し、また、その取引高から得られる利用料も収益としていく計画。

※2023年6月30日開示時点の事業計画期間（2022年3月期～2026年3月期）内においては、本事業を別個で報告セグメントとするような規模までは想定しておりませんが、中長期的に当社の業績向上に資するものと考えております。



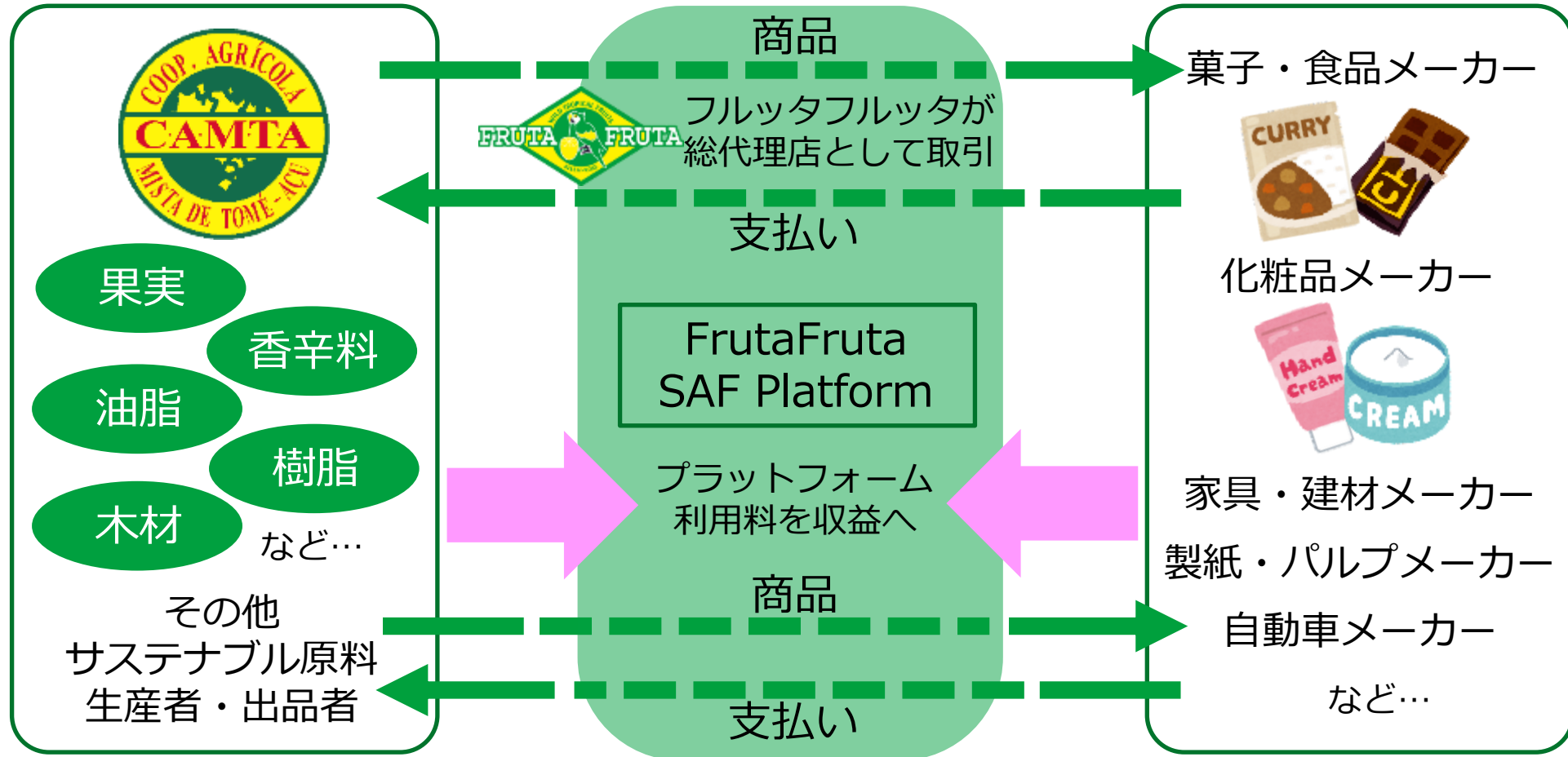
CAMTAからアグロフォレストリー産の原料等を輸入し、製品を企画・開発し、販売を展開。
委託工場で製造した自社製品だけでなく、外食チェーンへの卸、メーカーへの原料販売等を行う。

※2023年12月8日開示の前回事業計画P44の「自社フローズンチルドセンターの検討」
については、商品構成の方針変更により、検討を中止しております。



※詳しくは、P33以降の「今後の事業計画」内の「アサイーの海外事業展開」を参照ください。

新たなバリューチェーン・収益構造として、プラットフォーム事業を計画・進行中。
海外事業部門の取引をプラットフォームに乗せると共に、他社の商材も取り揃えることで、
取引高から得られる利用料を収益としていく計画。

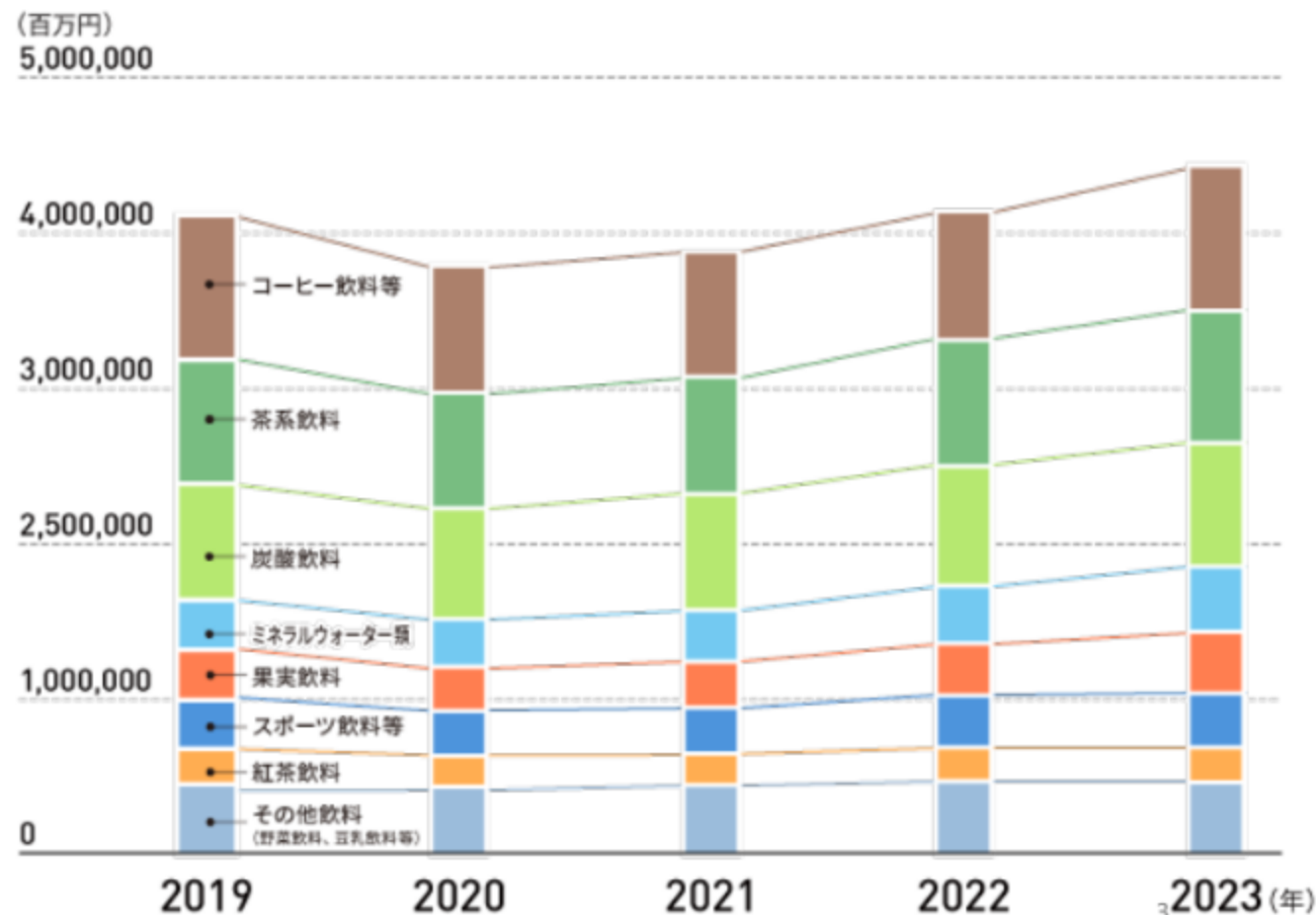


The background features a large, faint watermark of the Fruita logo. The logo is a diamond shape containing a stylized bird and the text "WILD TROPICAL FRUIT" at the top and "BELEM-KOBE" at the bottom. The word "FRUITA" is written in large, bold letters across the center of the diamond.

当社ビジネス取り巻く環境

The Environment Surrounding Us

2023年の清涼飲料水市場の販売額は前年比7.0%増加し、過去最高となった。(1)
 そのうち果実飲料市場は、2019年から2023年にかけて121.8%の拡大をしている。

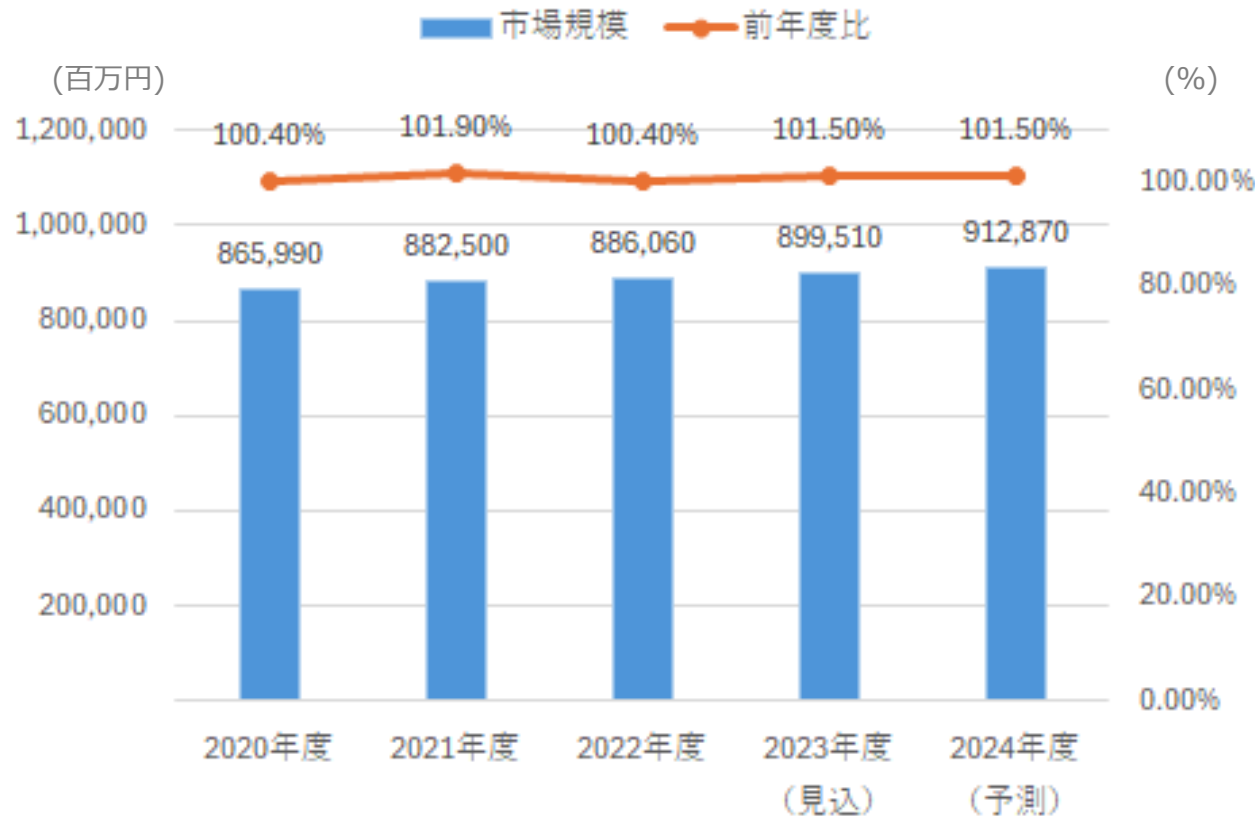


果汁飲料市場規模は今後も増加傾向。
 2019年では3,248億円であった市場が、
 2023年では3,956億円の市場規模となっている。

(1) 一般社団法人 全国清涼飲料連合会「清涼飲料水統計2024」

2024年度では9,128億円の市場規模が予測され、市場は緩やかではあるが成長を続けている。(1)
健康・美容効果が期待される食品の需要が今後も高まると考えられる。

健康食品市場規模推移・予測 (2)



健康食品市場規模は今後も増加傾向。
2020年度では8,659億円であった市場が、
2024年度では9,128億円の市場規模となる
予測がされている。

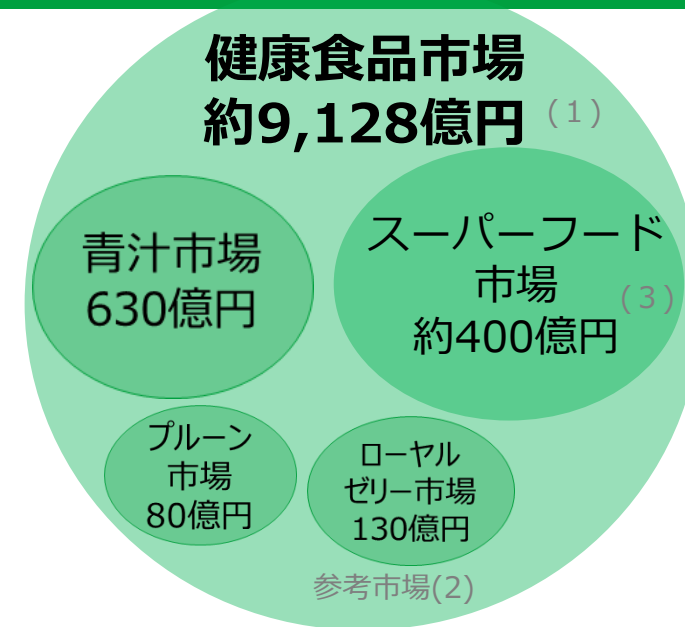
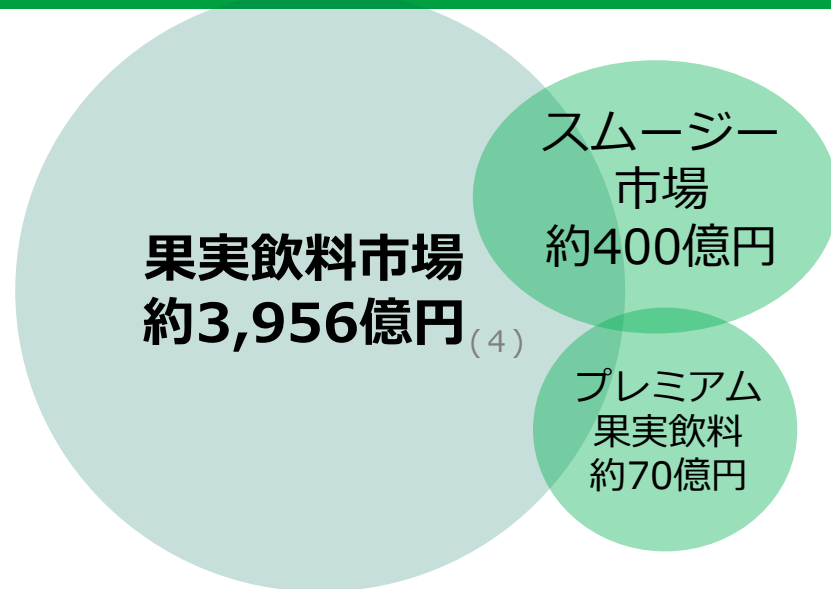
(1) 株式会社矢野経済研究所
「2024年版 健康食品の市場実態と展望 ~市場調査編~」
(2) (1)のレポートに基づき数値を当社にてグラフ化したものである。

今後、市場の中で勝ち抜いていくためには、「健康価値」「社会的価値」「機能価値」の組み合わせにより、価値を高めていくことが重要となる。

果汁飲料市場

健康食品市場

現在



今後

健康価値
ex.
栄養成分
HPP技術
新鮮フレッシュ

×

社会的価値
ex.
SDGs
CO2削減
Nature Positive

×

機能価値
ex.
免疫・整腸機能
ストレス軽減
フェムテック

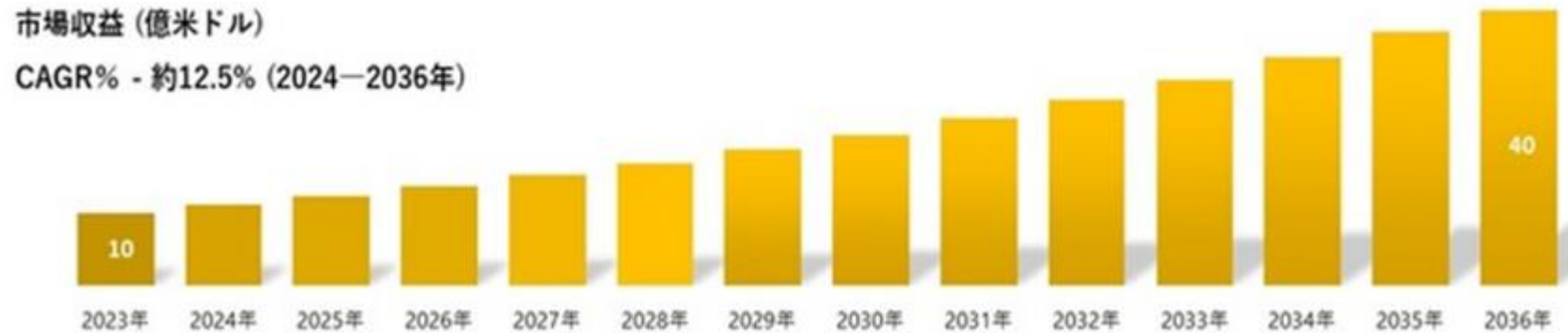
(1)株式会社矢野経済研究所「2024年版 健康食品の市場実態と展望～市場調査編～」

(2)株式会社屋の経済研究所「健康食品市場に関する調査(2021年版)2019年推計市場規模(メーカー出荷金額ベース)」

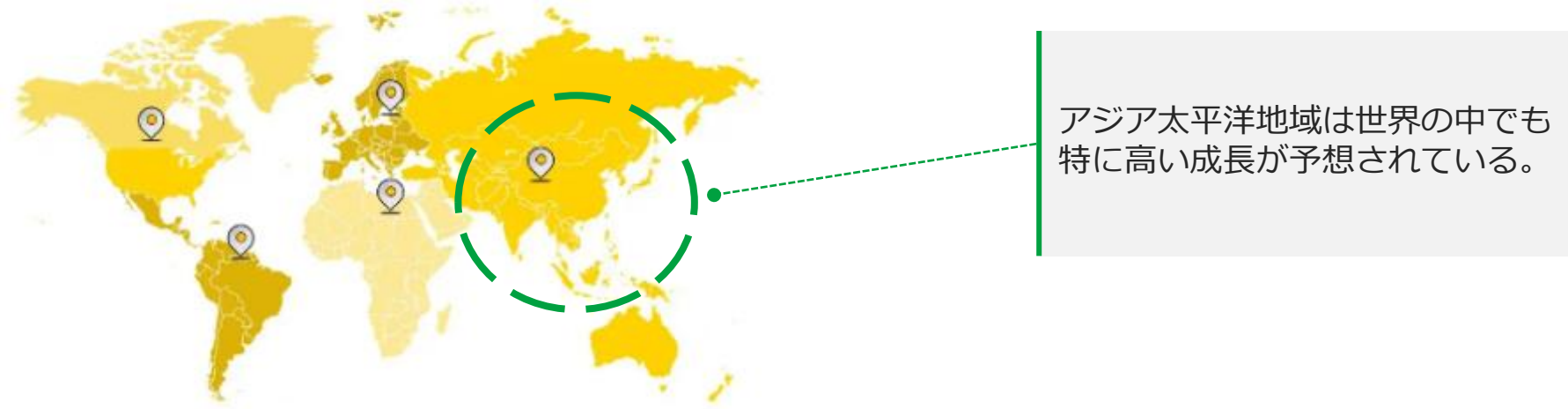
(3)スーパーフード協会調査(2018年)

(4)一般社団法人 全国清涼飲料連合会「清涼飲料水統計2024」

アサイーの世界市場規模は2023年時点で約10億米ドル、2036年までに約40億米ドルに達する予測
中でも、アジア太平洋地域においては、2036年末までに最大10億米ドルに達すると大幅な成長を予想 (1)



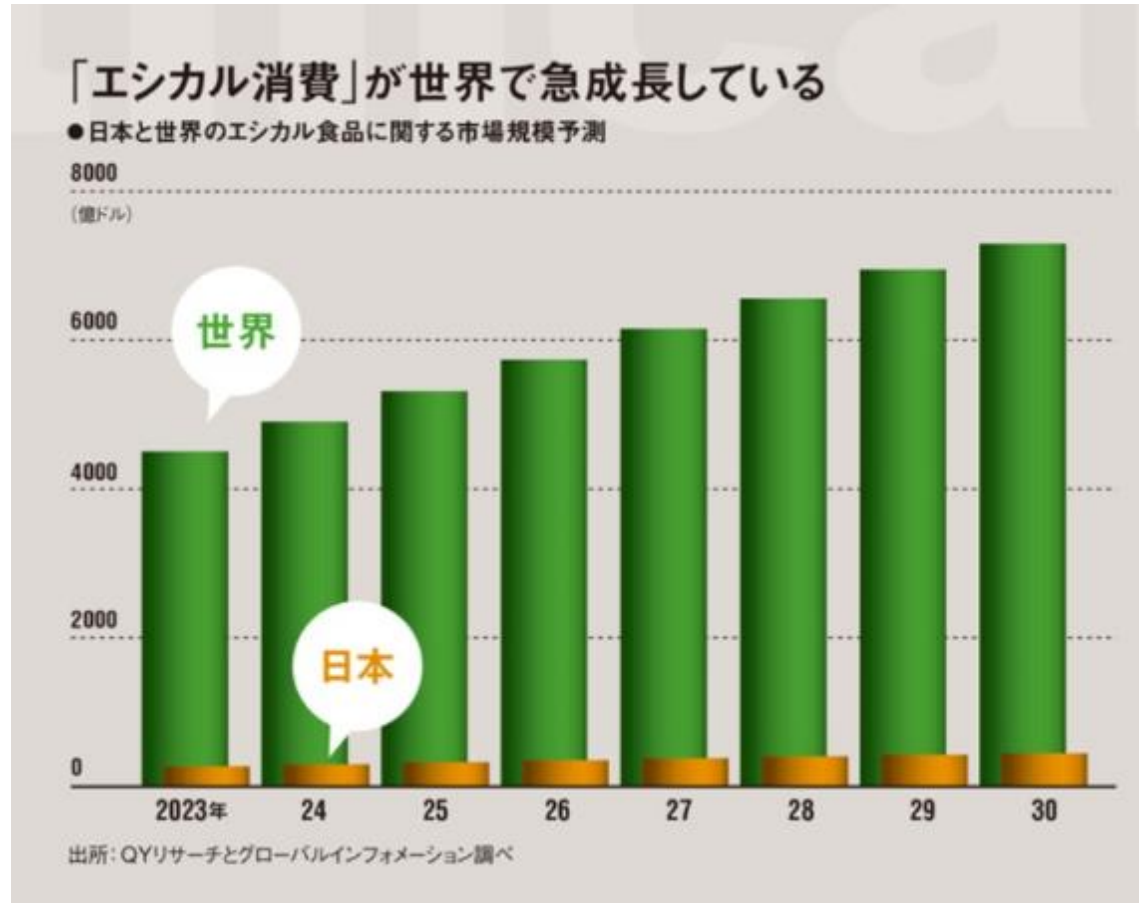
● 高い ● 中位 ● 低い



※ SDKI.Inc .世界のアサイーベリー市場に関する調査レポート： 予測2024-2036年 . <https://www.sdki.jp/reports/acai-berry-market/104521> . (2024-5-1)

2023年時点のエシカル食品の世界市場の規模は、約4,502億ドル。
2030年には7,294億ドルに達する見通しとなっている。

(1)



日本だけでも2030年には6兆円規模となる見込み。人、社会、地域、環境、生物多様性など、暮らしにかかわるあらゆる分野で、どんなルートをたどって提供されているのかを見極めようとする動きが広がっている。

(1) 「消費をのみ込むエシカルの波」日経ビジネス2023年7月24日発売号

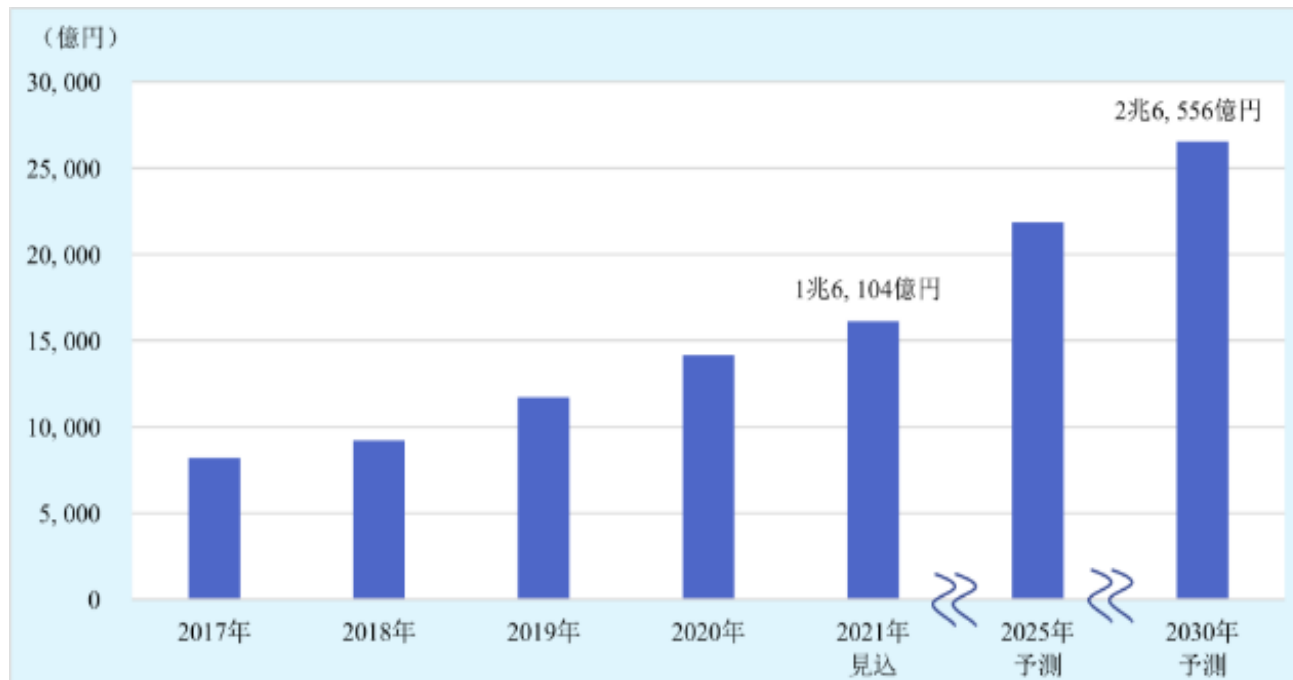
当社のエシカル食品の例

フルッタアサイーシリーズ

リジェネラティブな農業であるアグロフォレストリー農法により、生物多様性に配慮した原料を使用。CO2削減への取組を可視化したCO2削減量マークを記載。



国内サステナブルフードの市場規模も、2021年時点で1兆6,104億円と推計。
2030年には2兆6,556億円～6兆円の規模に達すると見込まれている。



- (1) 大豆などの植物由来の代替肉や、MSC認証やASC認証を取得したサステナブル・シーフード、フードバンクなど、サステナブルフードは徐々に消費者の生活に浸透しつつある。生産過程における環境負荷や、天然資源の浪費、生産者の人権侵害など、様々な負の影響を抑えて持続可能な食品の生産を実現するものを求める意識傾向が生まれていると推測。(2)

- (1) 富士経済グループ
SDGs社会に向けて変革するサステナブルフード市場の現状と将来予測
(2) 当社独自の見解に基づき算出されたものであり、必ずしも正確な推測ではない可能性がある。

サステナブルフードへの採用事例

2023年11月より代替肉の味改良を目的として当社のアサイー原料を使用したU.S.M.H社のプライベートブランド食品発売を開始。

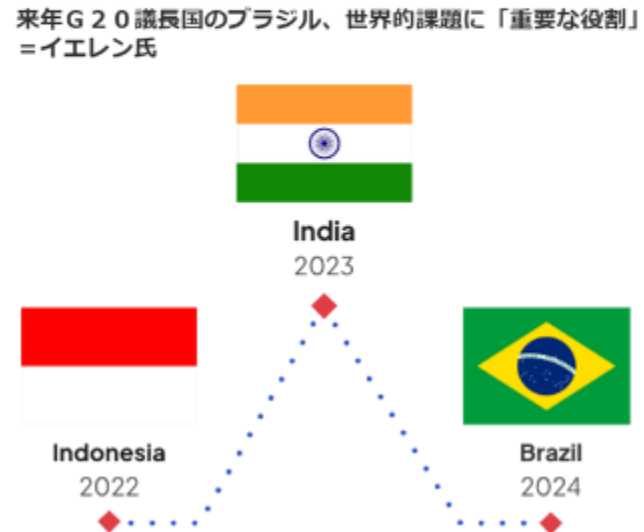


2025年COP30の開催地がアマゾンに決定しており、アグロフォレストリーが国際的に注目されつつある。当社はCOP30開催前にアグロフォレストリーを啓蒙する取組みを進めていく。

※アグロフォレストリーの啓蒙に関する具体的取組み事例については、2024年5月31日開示の「サステナビリティレポート2023」を参照ください。

2024年
G20 リオデジャネイロ

2025年
COP30 ベレン



2025年COP30 ブラジル北部のアマゾン地域で初開催へ



日系社会を始めとする人的交流に支えられた歴史的な友好関係を強調し、更なる二国間関係強化の指針を記したものとして、日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ（GPI）を発出。(1)

日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI) (2)

令和6年(2024年)5月
外務省南米課

背景・意義

◆ルーラ大統領は環境・気候変動対策を政権の最重要課題の一つと位置づけ(2025年のCOP30のブラジル・ベレンでの開催や2023年8月のアマゾン流域8か国首脳会合の開催等)。2050年までのネットゼロ及び2030年までアマゾン熱帯雨林の違法伐採ゼロを目標に掲げている。

◆日本は、先進的レーダー衛星やAI技術を活用し、アマゾンの違法伐採対策等に協力。2022年7月、両国間で気候変動分野に関する宣言書に署名。2023年5月の日ブラジル首脳会談(於:広島)において、**両首脳は、環境・気候変動対策において緊密に連携していくことで一致。**

◆環境・気候変動分野における両国の協力のポテンシャルは高い。**日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)**は、「**環境・気候変動対策**」及び「**持続可能な開発**」を軸として、日本の技術活用による協力を通じて「**戦略的グローバル・パートナーシップ**」の一層の強化を図るもの。

「ブラジルの推進する劣化農地改良事業も含め、持続可能な農業の実現に向け協力を深めていく。」と明言され、取組みの中にはアグロフォレストリーも含まれる。

(1)外務省、環境・気候・持続可能な開発及び強じんな経済に関するブラジルと日本のパートナーシップに係る共同声明(日ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI))、

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100664790.pdf> . (2024-5-3)

(2)外務省、「日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)」概要、

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100664788.pdf> . (2024-5-3)

GPIにおける取組

(1)環境・気候変動協力

- アマゾン基金への拠出(4.11億円(300万ドル))
- 十全性(質)の高いイニシアティブの推進
- 海外投融資を活用した事業の推進 等



アマゾンの違法伐採モニタリング



アグロフォレストリーの様子

(2)持続可能な開発

- 地球温暖化対策・食料安全保障を目指した劣化農地の畑地転換
- アグロフォレストリー(持続的な土地利用及び生物多様性・森林保全を確保する森林農法)
- 精密・デジタル農業(ICT等の技術を活用した農業生産の効率化・持続可能な農業の促進)
- 水素・アンモニア、持続可能な航空燃料(SAF)、合成燃料(e-fuel)等エネルギー分野の協力

アマゾンで生まれた、自然と共に生きる農業。人間の手で壊した自然環境は、人間の手できちんと修復する。
GPIの流れに沿う形で、当社大切なテーマを実現へと取組みを進めていく。

(1)

(2)

日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ（GPI）

環境・気候変動対策

◆ アマゾン基金への拠出

アマゾンの森林保護を目的としてブラジル政府が設立した同基金への拠出(4.11億円(300万ドル))を通じて、森林の管理・監視、生態学的・経済的ゾーニング、土地利用計画、土地所有権の正規化、伐採地の回復等の分野のプロジェクトを支援。

◆ 十全性(質)の高いイニシアティブの推進

温室効果ガス排出削減への貢献の重要性を認識しつつ、気候変動対策におけるパートナーシップの強化の可能性を模索。

◆ 防災における協力

強靱な街づくりのための土砂災害構造物対策能力向上への協力。

◆ 三角協力

アマゾン流域地域におけるパイロットプロジェクトとして、地球観測データキューブ等のリモートセンシング技術を活用した大洋州諸国向けの研修を実施。

◆ 海外投融資を活用した事業の推進

「気候変動対策投資推進事業」を始めとする、TSUBASAプログラム等の民間ファンドへの出資を通じた気候変動対策分野の新興企業への出資。

持続可能な開発

◆ 劣化農地改良

土壌改良等による豊かで包括的な循環経済型農村社会の実現に向けて協力。日本は「セラード農業開発協力(PRODECER)」(1979年～2001年)を通じてブラジルの食料増産、地域開発に貢献した実績あり。

◆ アグロフォレストリー(SAFTA)

1970年代にブラジル北部の日系農家が開発した、胡椒や熱帯果樹、樹木栽培を組み合わせた森林農法。日本は1974年から2021年、専門家派遣、熱帯果樹のジュース加工工場整備等の支援を実施。本事業を通じて、持続的な土地利用及び生物多様性・森林保全の確保に向けて協力。

◆ 精密・デジタル農業共創プロジェクト

日・ブラジル間の官民連携を通じた各分野の実証事業や農業データプラットフォームの整備を支援。

◆ エネルギー分野における協力

水素・アンモニア、持続可能な航空燃料(SAF)、合成燃料(e-fuel)等エネルギー分野の協力。

政府はアグロフォレストリーを通じた持続的な土地利用及び生物多様性・森林保全の確保を図る。

当社も消費の力を最大化してアグロフォレストリーの維持発展に貢献する取組みを進めていく。(3)

(1)外務省、環境・気候・持続可能な開発及び強じんな経済に関するブラジルと日本のパートナーシップに係る共同声明(日ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI))、

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100664790.pdf>。(2024-5-3)

(2)外務省、「日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ(GPI)」概要、

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100664788.pdf>。(2024-5-3)

(3)アグロフォレストリーの維持発展に関する具体的な取組み事例については、2024年5月31日開示の「サステナビリティレポート2023」を参照ください。



競争優位性

Competitive Advantage

TCFDの生物多様性版とも言われる『TNFD』への取組みが企業活動に求められる状況。
アグロフォレストリーの強みを活かし、CO₂削減及び生物多様性の回復に、事業での取組みを通じて貢献。
環境と共存した利益の追求で、自然資本主義の実現へ。

※アグロフォレストリーに関する事業での取組みについては、2024年5月31日開示の「サステナビリティレポート2023」を参照ください。

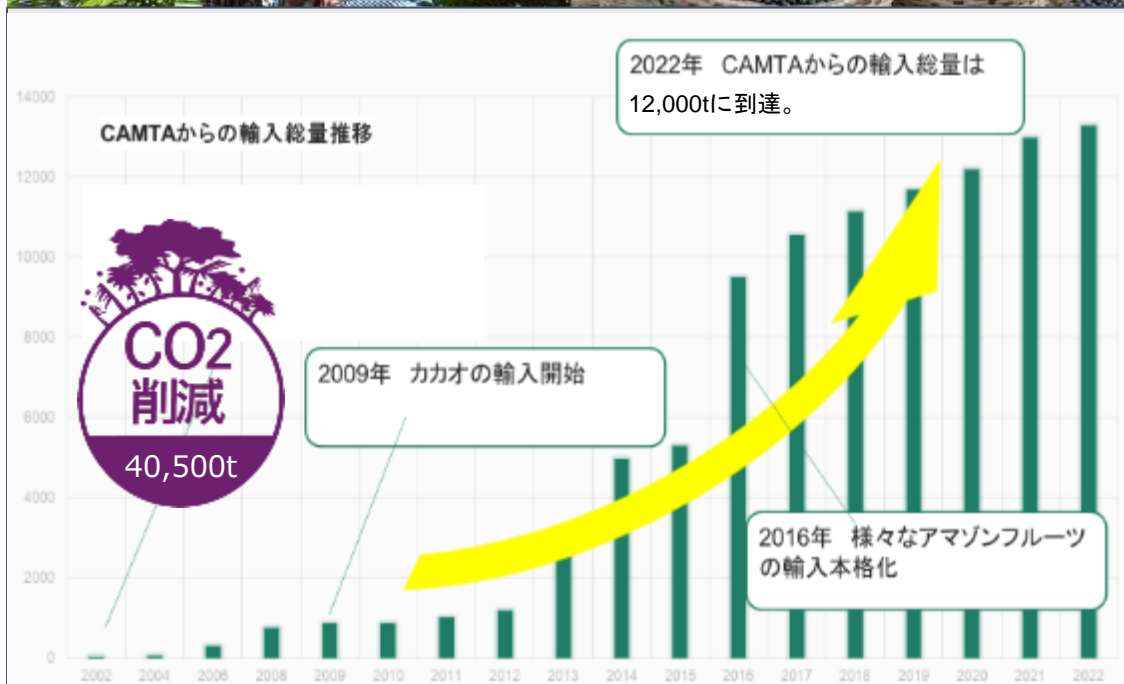


アグロフォレストリーのメリット

アグロフォレストリーのメリットは大きく「環境」「社会」「経済」の3つ各側面からサステナブルな農業として期待されている



▶ **経済活動と環境を両立できる持続可能な農業**



- ① 原料 1g = CO₂削減量 4.5g
- ② 20年間のアサイー輸入総量 約9,000t
- ③ CO₂削減量は9,000t × 4.5g = 40,500t
- ④ 1haあたり8tのアサイーを収穫
- ⑤ そのうち30%が製品化 2.4t/ha
- ⑥ 9,000t ÷ 2.4t/ha = 3,750haの森再生に貢献

CAMTAは、アグロフォレストリーを通して減らした二酸化炭素を、炭素クレジットとして発行するプロジェクトを開始。炭素クレジットはMicrosoftに販売され、メディアからも注目されている。



市場での成長を加速させるため、アサイーの機能性研究で付加価値を見出していく。

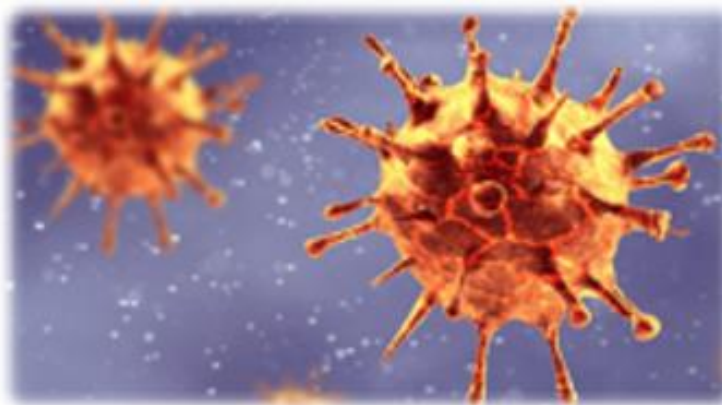
造血機能研究



マウスにアサイーを摂取させた結果、造血ホルモンのエリスロポエチン（EPO）の分泌が促され、赤血球数が増加することが判明

原因物質の特定へ

抗炎症研究(トロント大学)



当社アサイー原料を使った細胞試験において、NLRP3誘発性炎症を抑制する効果が認められたことを発表

これまでに引き続き
長期目線で働きかけを継続

※トロント大学独自の研究につきましては、2022年6月24日開示の「トロント大学によるアサイーの臨床試験終了のお知らせ」以降、現時点で試験に関する発表はございません。

プラントベースフード研究



代替肉品質改善を目的とした
有効成分に関する特許出願 (1)

2022年8月、一般食材への
応用による発展可能性。
他社製品への採用事例にもつながる (2)

今後の事業計画

Growth Strategy



既存戦略

機能性価値訴求戦略

アグロフォレストリーGX戦略

アサイー
ファン

外食
チャンネル

鉄
ポリフェノール

HPP技術

抗炎症

造血

プラント
ベース

EAP

CO2削減

戦略は継続しつつ、より具体的に実行に向けた計画へ

アサイーのアジアを中心とした海外事業展開

- ・ 創業時の事業でもある多店舗展開によるアジア市場開発
- ・ アジア全域に原料、製品を供給するハブとなる生産拠点の確保
- ・ アジアにおけるアサイーの普及活動及びプロモーション
- ・ アサイーの機能性研究及びPR活動

サステナブル マッチング プラットフォーム構築

- ・ 自社品だけでなく、サステナブルに関連する他社の商材も取り揃え
- ・ WEB3技術を利用、売買を通じたCO₂削減量を表示、記録
- ・ 将来的にクレジットと関連付けを計画
- ・ COP30などのサステナビリティ関連イベントでのプロモーション活動

既存戦略

機能性価値訴求戦略

アグロフォレストリーGX戦略

アサイー
ファン

外食
チャンネル

鉄
ポリフェノール

HPP技術

抗炎症

造血

プラント
ベース

EAP

CO2削減

国内需要をキャッチし業績拡大と、より大きな市場獲得への成長計画へ

アサイーの事業展開

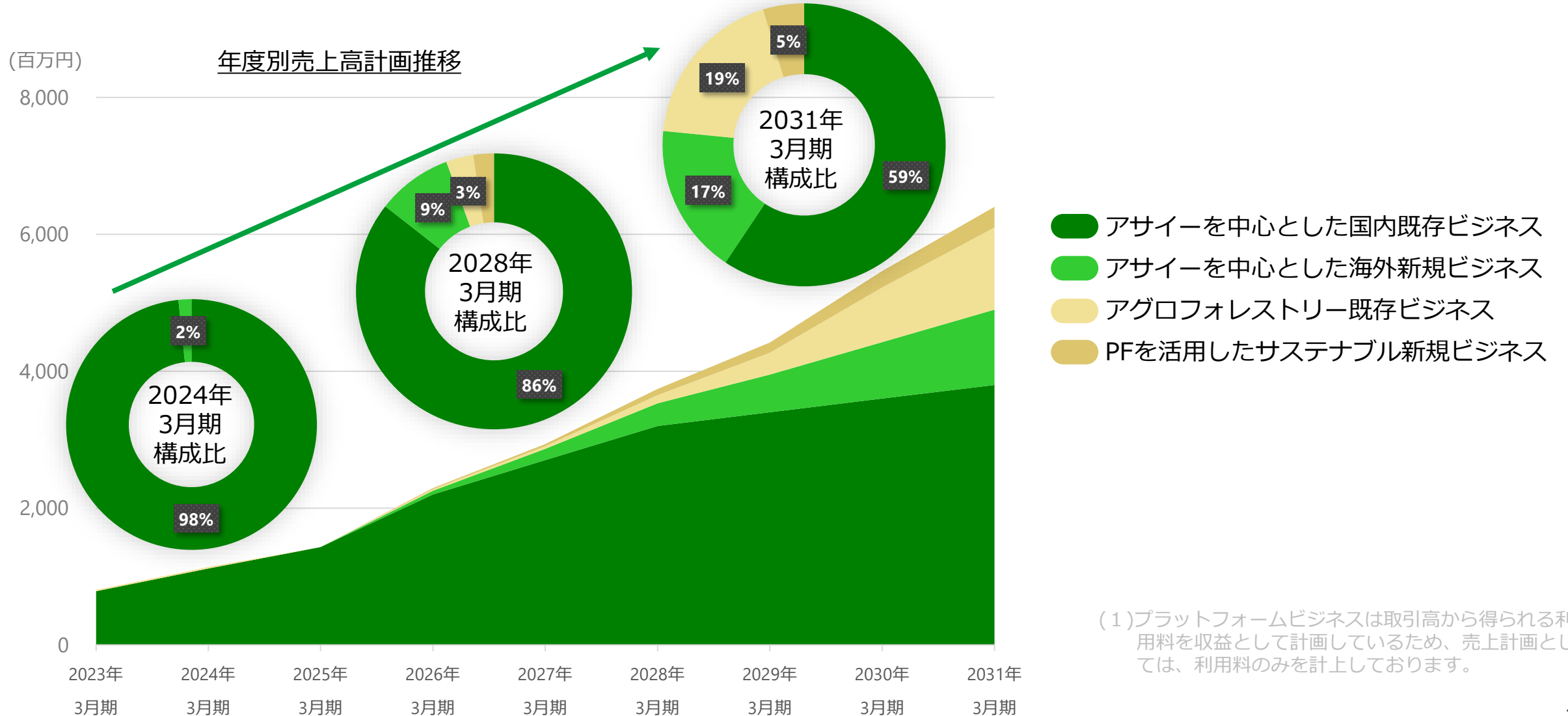
- ・国内需要の盛り上がりに対して、販売、商品拡充を行い安定した供給へ。
- ・創業時の事業でもある実店舗の展開
- ・円安動向対策ともなるアジアに対して原料、製品を供給するハブとなる生産拠点の確保
- ・ライブコマースも視野に入れたアサイーの普及活動及びプロモーション
- ・アサイーの機能性研究及びPR活動

サステナブル マッチング プラットフォーム構築

- ・自社品だけでなく、サステナブルに関連する他社の商材も取り揃え
- ・WEB3技術を利用、売買を通じたCO₂削減量を表示、記録
- ・将来的にクレジットと関連付けを計画
- ・COP30などのサステナビリティ関連イベントでのプロモーション活動

アサイーの国内業績拡大に伴い、売上構成比をブラッシュアップ。

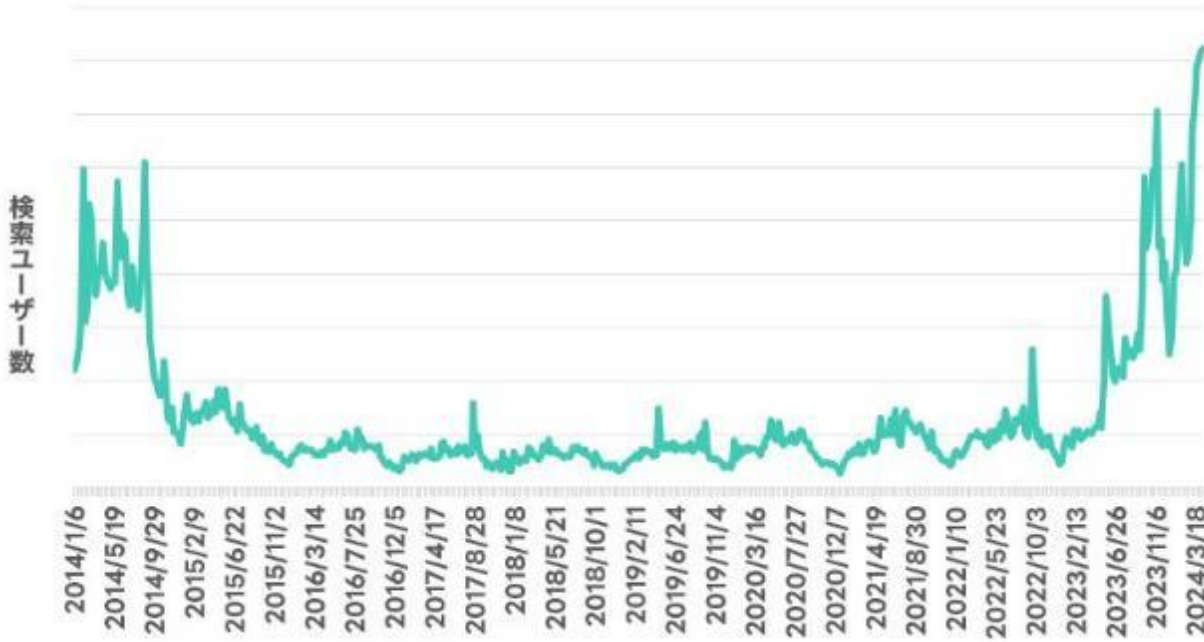
国内での認知拡大を新たな武器として、海外事業展開により売上拡大を図ると共に、プラットフォームでは安定した売上・利益を確保することで、中長期的な利益体質強化に向けた取組みを進めていく。



国内市場の盛り上がり

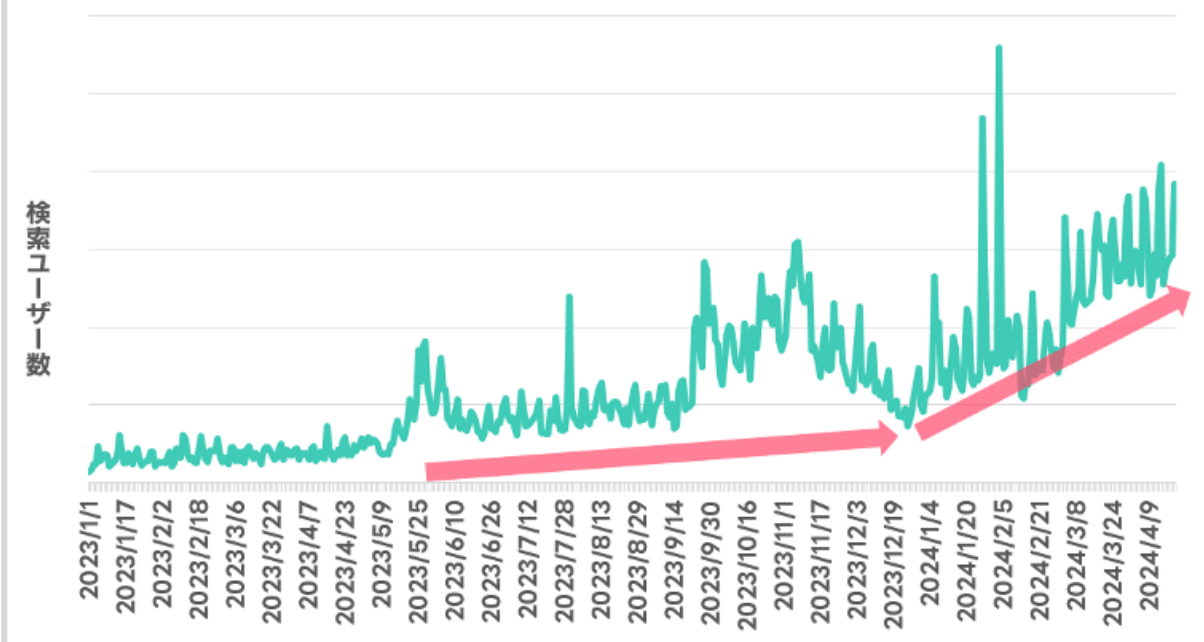
「トレンドマップ」のブレイクエリアに現れた「アサイーボウル」の検索数が直近1年間で3.87倍に上昇 (1)
 2024年3月には2014年のピーク時を上回る水準に達する

「アサイーボウル」の検索数推移 (2014年から週次) (2)



集計対象期間：2014年1月6日週～2024年4月8日週 (週次)

「アサイーボウル」の検索数推移 (2023年から日次) (2)



集計対象期間：2023年1月1日～2024年4月13日

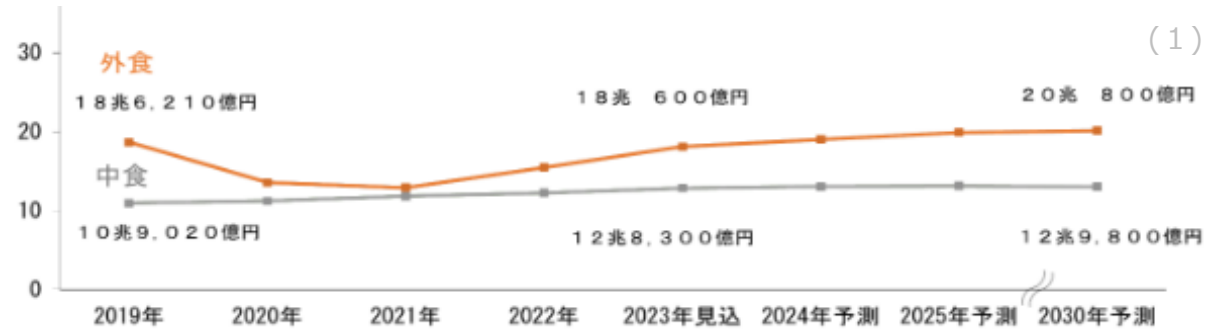
▶ 国内需要の盛り上がりに対して、日本におけるアサイーを用いた事業の先駆者として
 応えるべく、安定した供給に向けて調達機能の強化を図る。

(1) 2023年4月24日～2024年4月23日と2022年4月24日～2023年4月23日での比較

(2) ヤフーデータソリューション、「アサイーボウルが10年ぶりの大流行中? データトレンド分析がとらえたその中身」. https://yahoo.jp/Lix_fE. (2024-5-1)

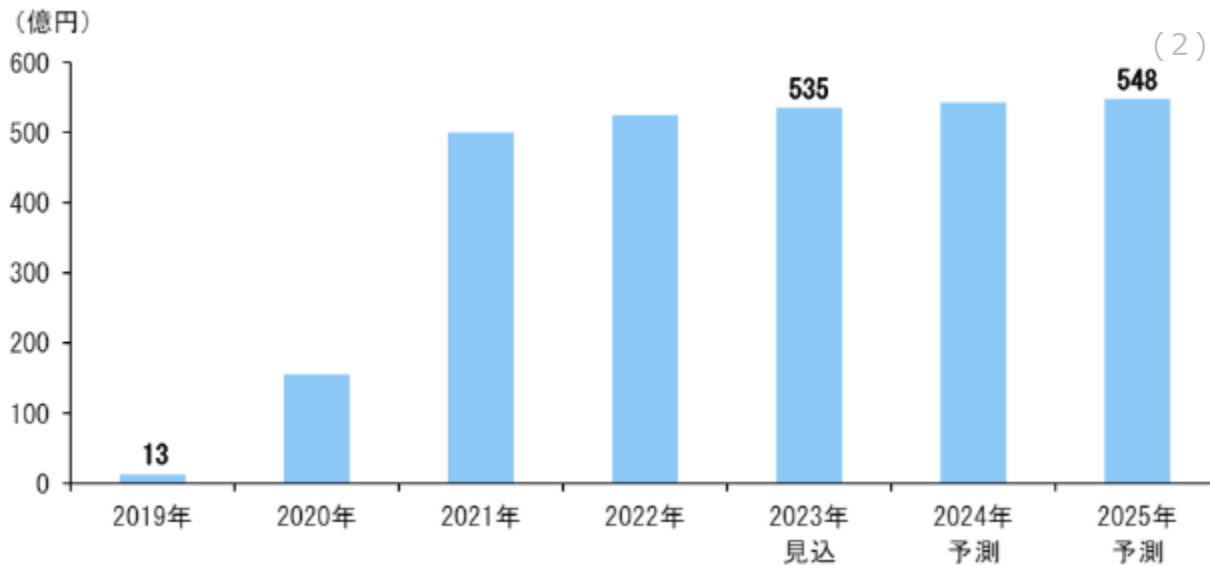
おうち需要の伸長、拡大

コロナ禍を機に中食需要が増大し、店舗からのデリバリーが拡大した。
アサイーの盛り上がりにより、バーチャルレストランやゴーストレストランでメニュー導入が進み需要増大。



中食の国内市場は、
新型コロナ前（2019年）約10兆円から
2030年は約13兆へと拡大が予測される (1)
ゴーストレストランの国内市場は、
新型コロナ前（2019年）13億円から
2025年は548億円と予測されている。(2)

- (1) 富士経済グループ 新型コロナ流行や価格改定の影響で変化がみられる内食、外食、中食の国内市場とその将来性を調査
<https://www.fuji-keizai.co.jp/press/detail.html?cid=23138&la=ja>
- (2) 富士経済グループ ゴーストレストランの国内市場を調査
<https://www.fujikeizai.co.jp/file.html?dir=press&file=23044.pdf&nocache>



メニュー導入事例

デリバリー業態でアサイーを使用した商品の導入が進む。

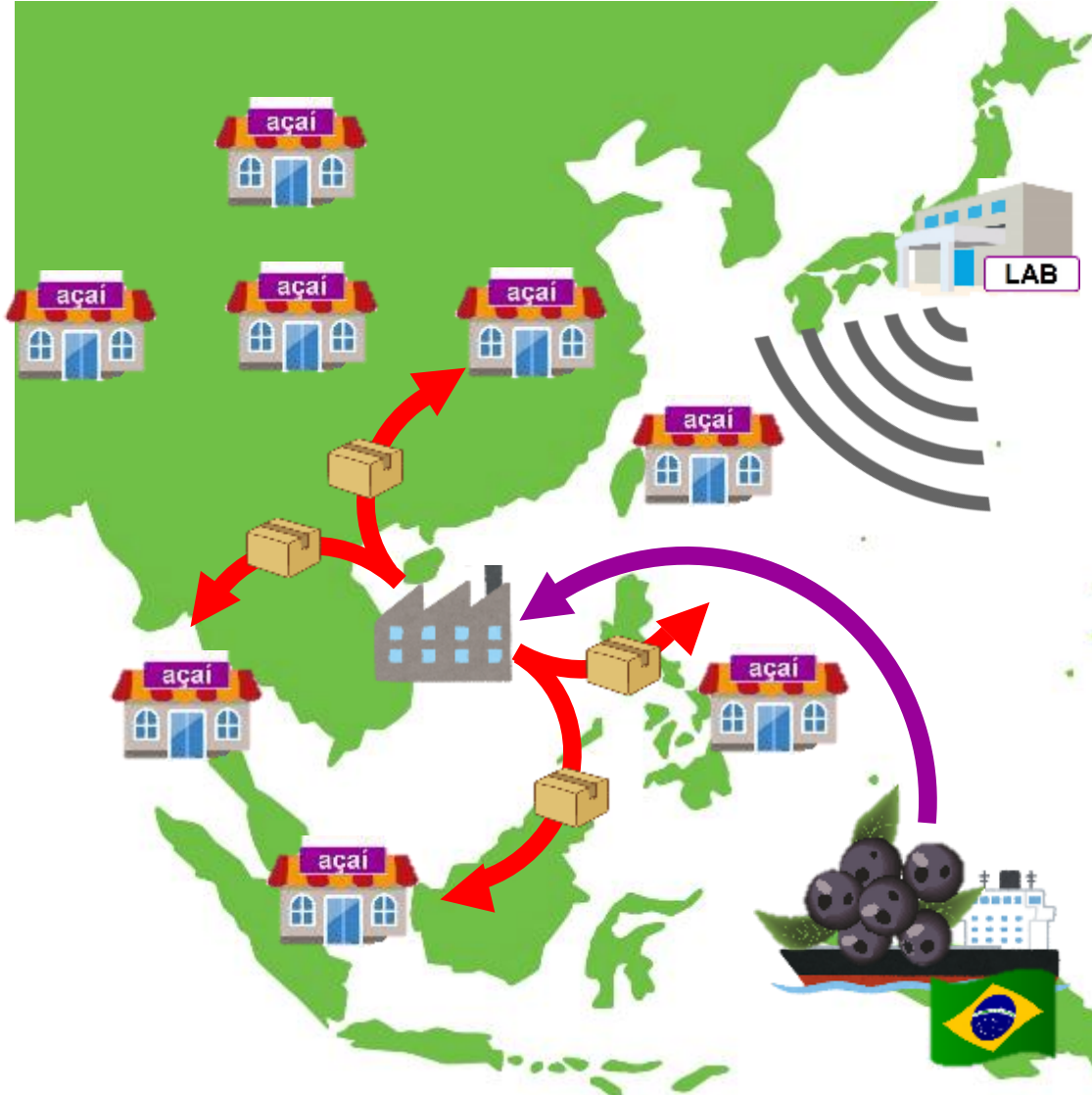


トレンド予測2024 カフェ・グルメ部門に「アサイーボウル」がノミネート (1)
Z世代は食体験において、「作る過程がみえる」「自分で選べる」などのプロセスを楽しめる食を注目



(1) SHIBUYA109 lab.トレンド予測2024 <https://www.shibuya109lab.jp/article/231205.html>

2031年3月期までにアジア市場においてアジアにおけるメインプレイヤーとなることを目指す。



国内でのテスト店舗展開

国内の盛り上がりに対し、日本国内で最大5店舗のOakberryブランドのテスト店舗を出店することを計画。2024年夏以降、第1号店出店に向けてロケーション・オペレーションの確認を進める。

日本でのブレイクを基に
更なる店舗展開へ



多店舗展開による市場開発

成長が見込める国に対し、アサイーが楽しめる店舗を展開。展開国に合わせて、プロモーションを展開することで市場活性化。

円安下、海外市場への取組み

円安下であることへの対策として、国内生産品をアジアマーケットへと展開していく。
 サステナブル調達の流れは世界的に加速中。当社の強みを活かし、原料、商品の両面から、
 まずはアジアへの販売を強化する。

ゼロ・デフォorestationへの取組み

森林破壊に関連した製品の輸入を禁止。EUで製品を販売する場合、森林破壊に関連しない証明を義務づける。



(1) 矢印・国旗は必ずしもターゲットとしている先を表すものではありません。また、商品・原料も同様です。今後動向を加味し、検討の後に決定してまいります。

アサイーの機能性価値で「造血効果」等によるQOL向上を、
プロモーション活動を通して新しい健康概念あるとして定着させ、需要喚起を図る。

製品機能価値の向上



解決したい意識を満たすアサイーの機能価値
B2C・B2Bの売上促進につながる「アサイー」の機能価値向上

自分ゴト化促進



解決意識を高めるための情報開発
造血、他の機能検証および対策を必要としている方々への情報提供

アサイー需要喚起



ターゲット：貧血やバイオリズムの不調に悩む人（主に女性）

臨床試験デザインを見直し、原因物質を特定中

大きく6つの特徴・メリットを有し、原料消費者と環境貢献の可視化を行う。
販売者及び購入者の円滑な取引をサポートする。

原料使用者と環境貢献の紐づけ

原料調達(生産者)からサプライヤー(製造)、エンドユーザー(消費者)までのサプライチェーン情報と、取引量に応じたCO₂削減量を明示、記録します。



トレーサビリティの向上

サプライチェーン情報、CO₂削減量を明示し、ブロックチェーン技術を利用し、記録された取引が増加することで、プラットフォーム内での環境貢献度の数値の信憑性が高まる。取引に対してサステナビリティに対する信用が生まれ、「このプラットフォームで買えばサステナブルで間違いなし」と認識される働きを生み出すプラットフォームを目指します。

幅広い品揃え

当社品40商材に加え、他社のサステナブル商材も取り揃える予定。「サステナブルに関連するものはここに来れば揃う」と認識されるプラットフォームを目指します。



ビジネス機会創出

プラットフォームに訪れる企業との新たなネットワークを活用して、ビジネス機会の獲得や新たなビジネスモデルの創出につなげることができます。

製品・サービスの差別化

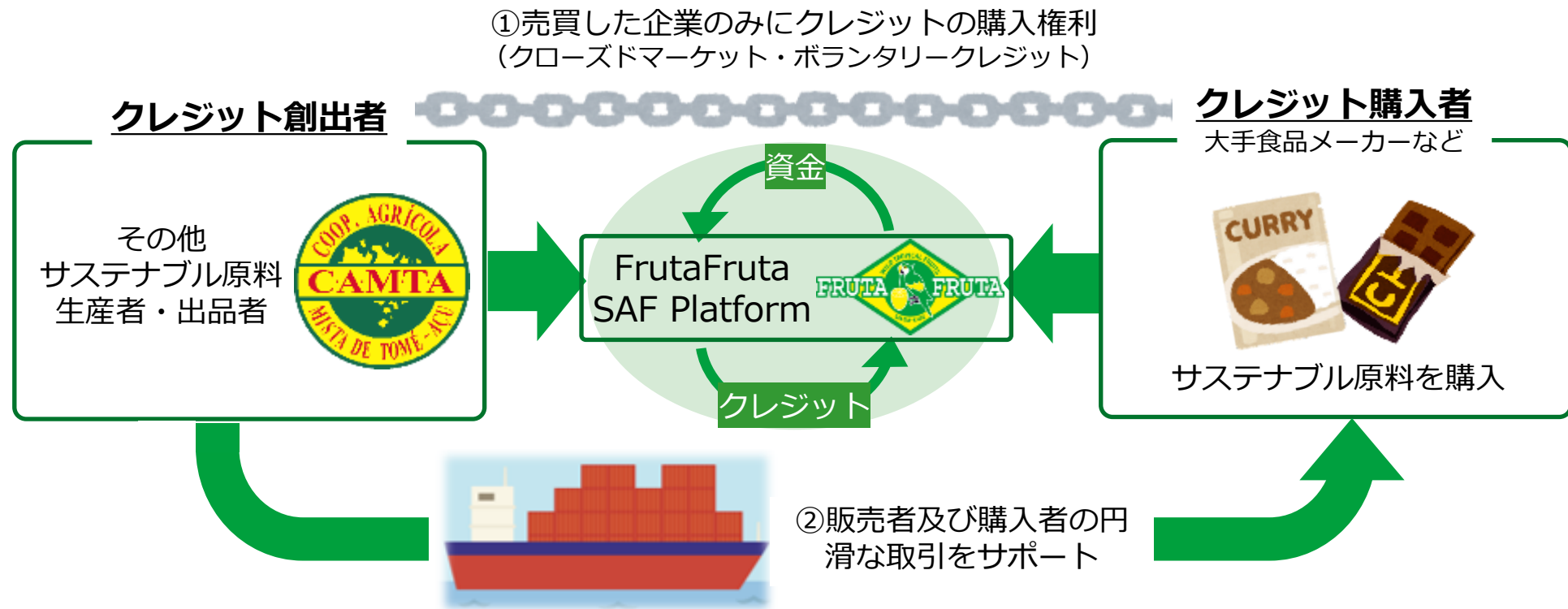
製品・サービスに係るCO₂削減量をアピールすることで、差別化・ブランディングに利用可能です。

PR効果、企業価値向上

環境貢献に関するPRができると共に、企業評価調査などに記載することで、企業価値向上につなげることができます。

01 | WEB3を活用したブロックチェーンを利用し、Co2削減量を明示・記録。
PF内で売買した企業のみ、CO₂削減量に応じたクレジットの購入権利を付与することで原料使用者の環境貢献度を可視化する画期的なシステム。

02 | 販売者及び購入者の円滑な取引をサポートするため、
貿易代行のノウハウを有する企業とM&A・資本業務提携などの方法も検討し、サポートの体制を整備。



飲料業界では初となるCO2削減量を可視化した「CO2削減量マーク」を展開。(1)
 近年特に重要な課題となっている「責任ある調達（サステナブル調達）」に対応した付加価値型原料として認知拡大。

CO2削減の取組み

2022年6月～CO2削減マークを作成し、
 自社EC内でポイントプログラム・会員ランクを実施。



商品ごとのCO2削減量の算出を行い、
 2023年3月から新商品に表示開始。既存品も順次切替を実施。



- 様々な植物から成り立つアグロフォレストリーを表現
- 製品に使用しているアグロフォレストリー原料に合わせたCO2削減量を表示

サステナブルカカオ豆

2023年3月期は合計400tを輸入。
 CO2削減量に換算すると1,800tとなる。

児童労働問題などにより、サステナブル原料として注目が集まっている。

サステナブルな原料を使用したいメーカーや小売業からの問い合わせもあり注目の兆し。



自社品からスタートし、他社品へのCO2削減量表示にまで発展しており、今後の広がりが期待できる。



— 様々な植物から成り立つアグロフォレストリーを表現

— 製品に使用しているアグロフォレストリー原料に合わせたCO2削減量を表示

2024年3月期の進捗と短期計画

Financial Highlight and Short Term Design

アサイーの再注目やCO2削減量を可視化した「CO2削減マーク」が奏功し、売上高が大きく伸長
営業利益、経常利益も前期比 赤字幅縮小。

売上高

1,136 百万円

〔 前期比 **141.2 %** 〕

売上総利益

356 百万円

〔 前期比 **114.1 %** 〕

営業利益

△ **263** 百万円

〔 前期比 **+48** 百万円 〕

経常利益

△ **306** 百万円

〔 前期比 **+0.3** 百万円 〕

- ポイント

- ① アサイーピューレ、お家でアサイーボウルやフルッタアサイーシリーズが好調に推移し、売上高、売上総利益に大きく貢献
- ② アグロフォレストリー原料使用によるCO2削減量の可視化を実現させたCO2削減マークの記載が進む中、サステナブルフードとして大手流通企業への採用実績
- ③ 物流コストの上昇が続く中で、国内備蓄原材料を有効活用し在庫回転率の上昇に伴い倉庫料を圧縮

3月下旬の船の到着後、素早くお客様に商品をお届けできたことが大きく貢献
国内備蓄原材料を有効活用して店頭での品薄を最小限に抑えたことも奏功し、通期予想を全項目で上回り着地

	2023年3月期 実績 (百万円)	2024年3月期 実績	前期比 (増減額)	2024年3月期 通期予想	達成率
売上高	804	1,136	141.2% (+331)	1,100	103.3%
営業利益	△312	△ 263	— (+48)	△ 284	107.3%
経常利益	△307	△ 306	— (+0.3)	△ 320	104.0%
当期純利益	△308	△ 306	— (+1)	△ 320	104.0%

リテール、業務用は前期比140%超と大幅伸長
DM、海外も前期比100%超となり、すべての事業部門で前期比を上回る着地

(百万円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前期比 (増減額)
売上高	804	1,136	141.2% (+331)
リテール	371	548	147.7% (+177)
業務用	293	417	142.3% (+124)
DM	122	151	124.1% (+29)
海外	17	18	106.4% (+1)

- 上半期は楊枝甘露や台湾フルーツティーなどの新商品が好調
- 下半期は冷凍アサイーピューレやお家でアサイーボウル、フルッタアサイーシリーズが好調に推移

- アサイーピューレ、アサイーグロッソアイスが好調に推移
- CO2削減量マークを使用したU.S.M.H社のPB商品が発売
- タリーズ社の「ヨーグルト&アサイー」がSNSで話題となる

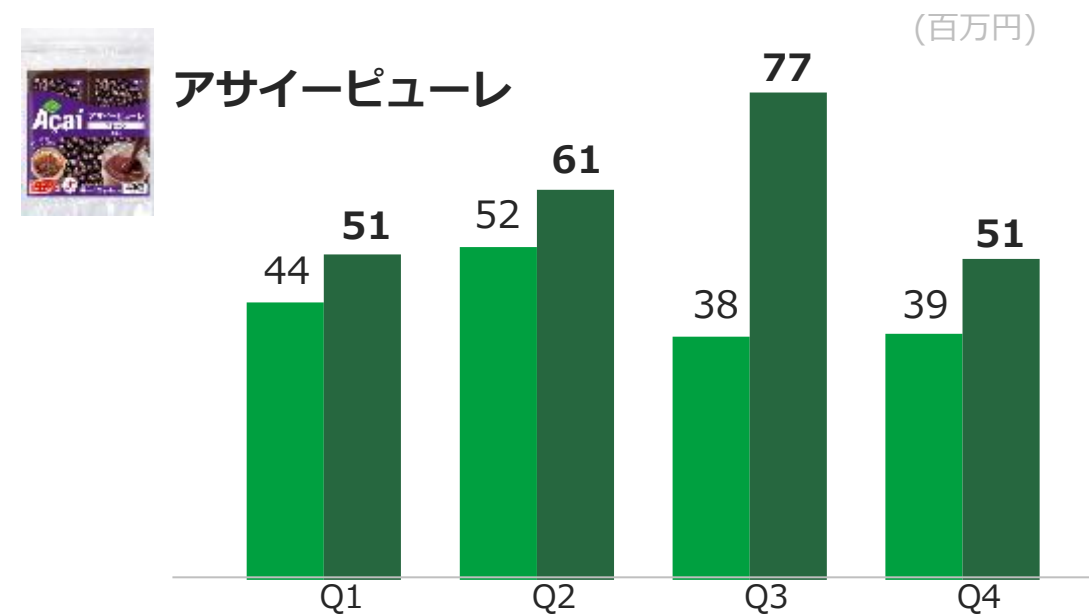
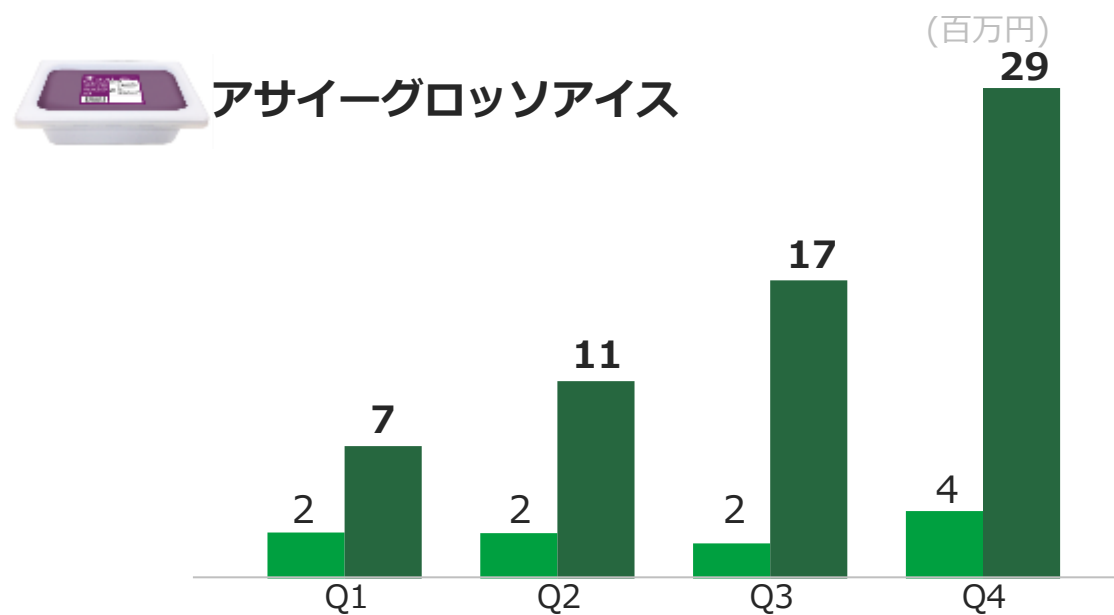
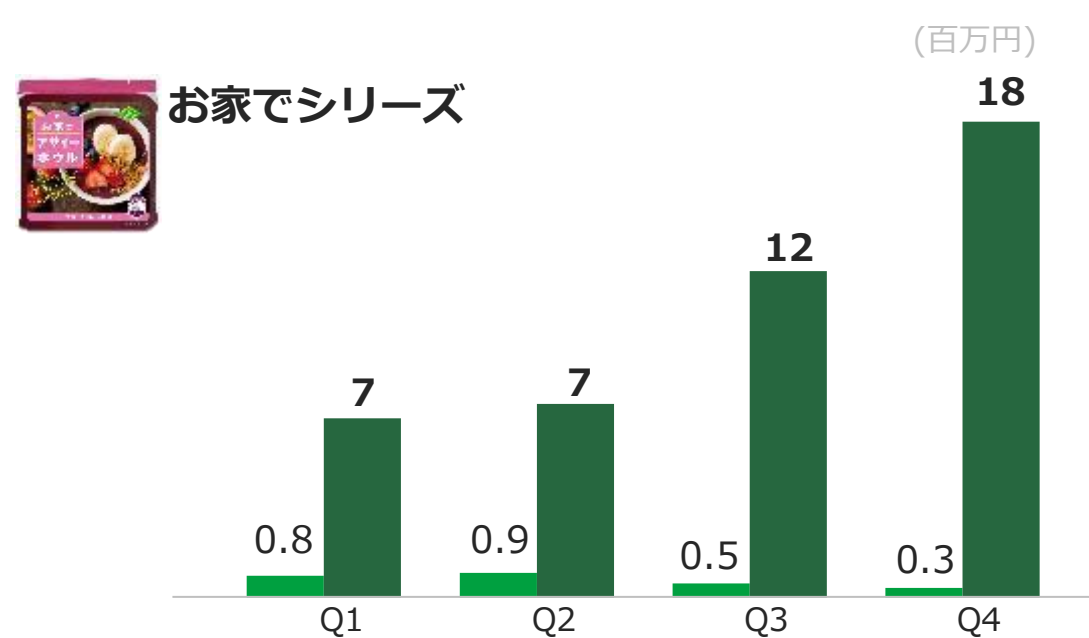
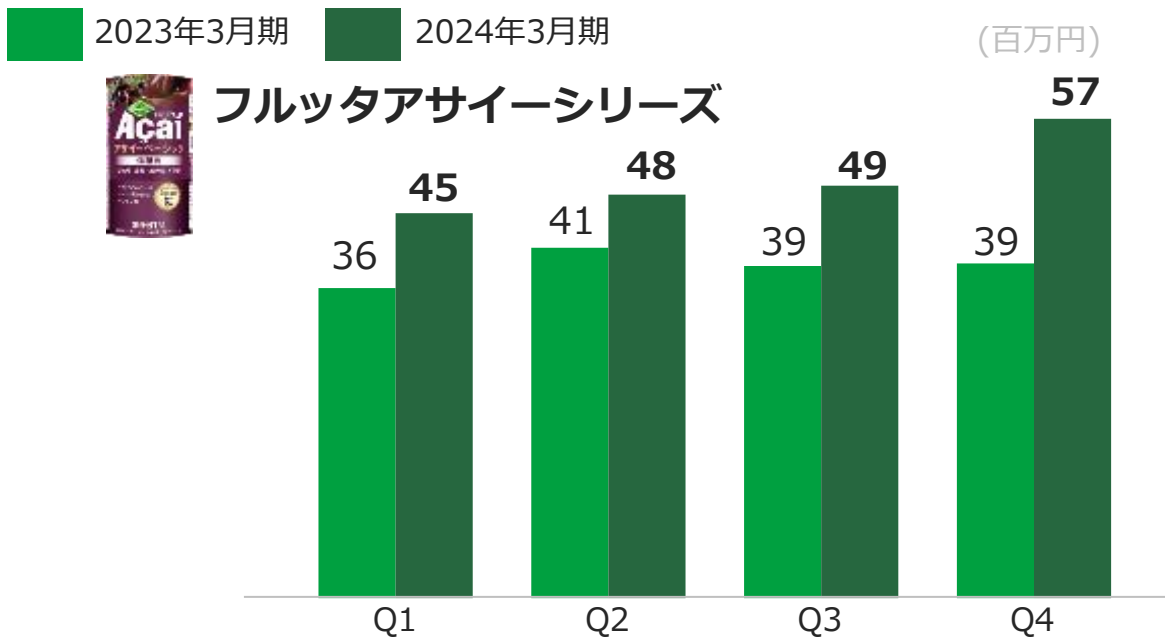
アサイーへの関心の高まりによって国内需要が大幅に増加
 既存アサイー商品が伸長し、いずれの商品も売上高が前年を大きく上回る着地



– ポイント

- 1 「アサイー」自体への関心も高まりつつも、さらに「アサイーボウル」としての認知が拡大
- 2 これまでの「健康的関心」だけではなく、「外食及び中食で食べること」が目的として関心が高まる
- 3 国内備蓄原材料を有効活用し、輸入の遅れにも体制を整え対応

2024年3月期の進捗 - 商品別の伸長 -



国内アサイー事業にリソースを集中させることで売上高について増収黒字化に向けて全段階利益について赤字幅縮小を目指す

(百万円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比 (増減額)
売上高	1,136	1,430	+25.7% (+293)
営業利益	△263	△100	- (+163)
経常利益	△306	△100	- (+206)
当期純利益	△306	△100	- (+206)

- 既存品の露出拡大
- 利便性の高い新商品を投入
- 「CO2削減マーク」を武器に付加価値型原料の拡大
- ECサイトのリニューアルと仕掛け作り

- 在庫の有効活用及び原料調達のコントロール
- 原材料の見直しや配送効率の改善による費用負担の削減

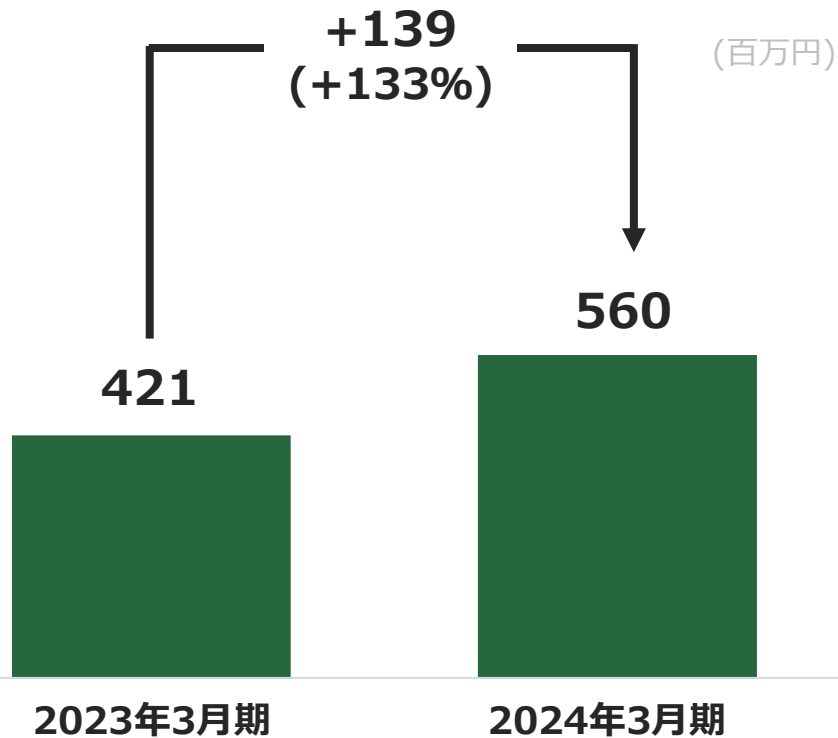
当社は、2024年4月19日の取締役会において、売上拡大に備えた資金の確保と成長投資の実行を目的として、Evolution Capital Investments LLCとの間で、特約付株式貸借取引貸借契約を決議しております。(1)

締結先（借主）	Evolution Capital Investments LLC
締結日	2024年4月19日
貸株の実行日	2024年4月26日
貸株の終了日	2025年4月25日
対象株式	株式会社REVOLUTION 普通株式
証券コード	8894
対象株式数	20,505,273株
貸借料	年率0.10%
担保金	借主は当社に対して、本契約締結日の5営業日後の日（以下「担保金引渡日」という。）に担保金387,000,000円を差し入れる。当社は、担保金引渡日に、受領した担保金から、EVO FUNDが保有する当社の第1回無担保普通社債（※）の全部について買入消却を行い、残余については、借主に返還するまでの間、原料の仕入れ資金に充てることを予定している。当社は貸株の終了日に担保金を借主に返還し、貸株の返還は担保金の返還を条件として行われる。
担保金金利	年率1.00%
主な特約	対象株式の貸借期間中は、借主が対象株式に関する議決権を取得し、当社は対象株式に関して議決権を行使する権利を有しない。 対象株式の貸借期間中は、対象株式を保有していることに関連する一切の権利は借主に発生する。 借主は、取引終了日の5取引日前まで（同日を含む。）の任意の時点において、貸主に書面の通知（「コール通知」）を行うことにより、当社から、対象株式のうち借主が任意に選択する一部又は全部を、コール通知に記載される取引決済日において対象株式1株あたり25円で買い取ることができる権利及びオプションを有する。 借主が当社に対して担保金の返還を請求する通知を行った場合、当社は当該通知を受領した日から1営業日後の日に担保金を返還する。 当社が担保金を返還しない場合、借主は、貸株を受けている対象株式を借主の裁量で売却その他の処分をすることができ、当該処分を行った場合、当該処分から得られる手取り金をもって、当社の担保金返還債務に充当する。

先に記載の貸借契約は、以下の施策と成長投資の実行を目的としたものであります。

潤沢な原料の仕入れ

下半期6カ月で前年同期比133%に伸長。
国内需要の盛り上がりに応えるべく、
潤沢な原料仕入れが重要となる



テスト店舗の出店

2024年12月に、ブラジル、アメリカ、ヨーロッパを中心に、世界40カ国以上で600店舗以上を展開する、アサイーにおける世界No1ブランドであるOAKBERRY ACAI, INCとのアサイーのアジア事業開発に向けた協議開始及び覚書を締結。(1)

ファーストステップとして、2024年夏以降、日本国内で最大5店舗のOakberryブランドのテスト店舗を出店することを計画しテスト店舗の出店後、更なる店舗展開を検討。



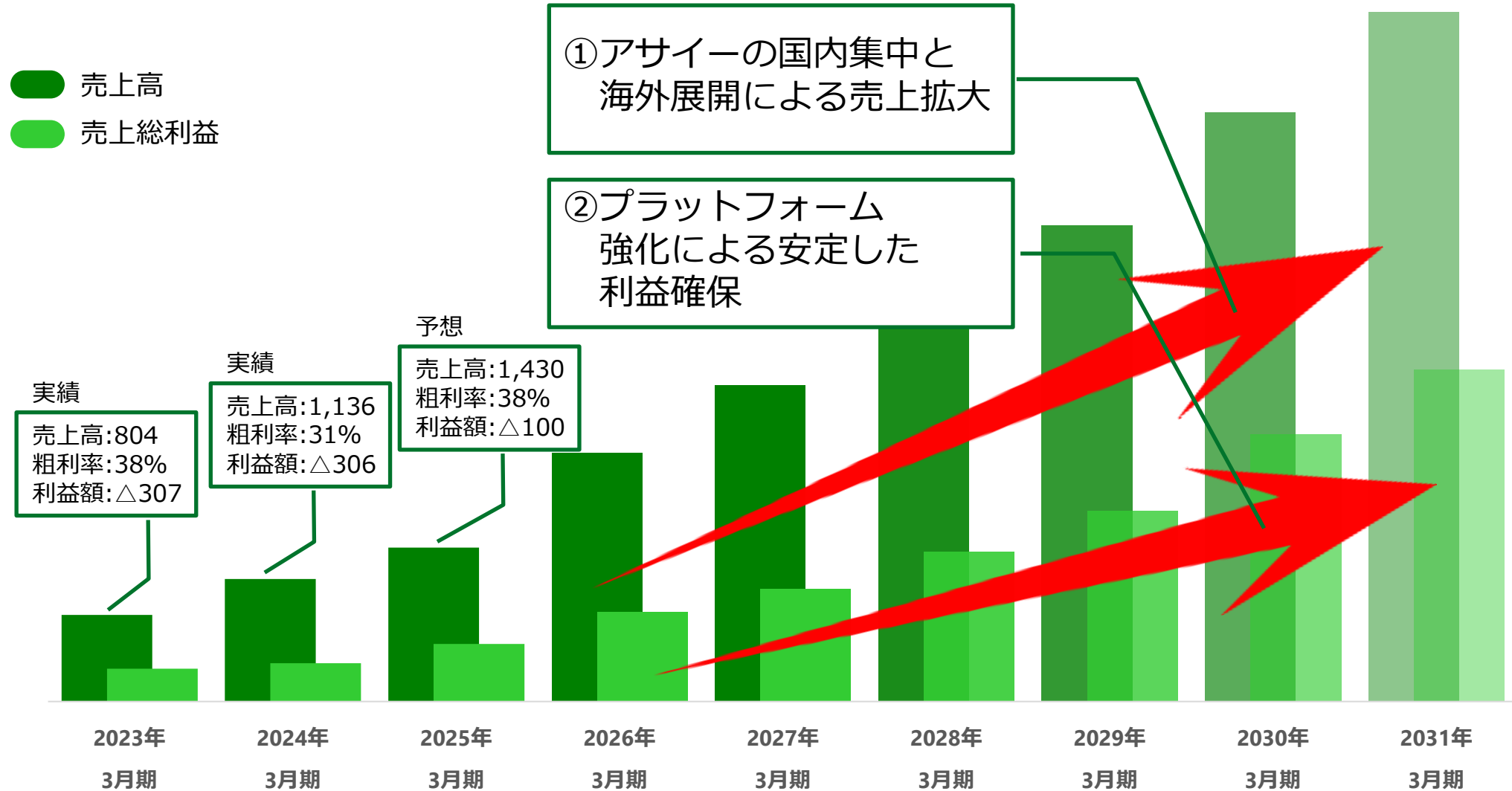
(1) 詳細につきましては、2024年1月9日開示の「OAKBERRY ACAI, INCとのアサイーのアジア事業開発に向けた協議開始及び覚書締結のお知らせ」をご参照ください。



中長期計画

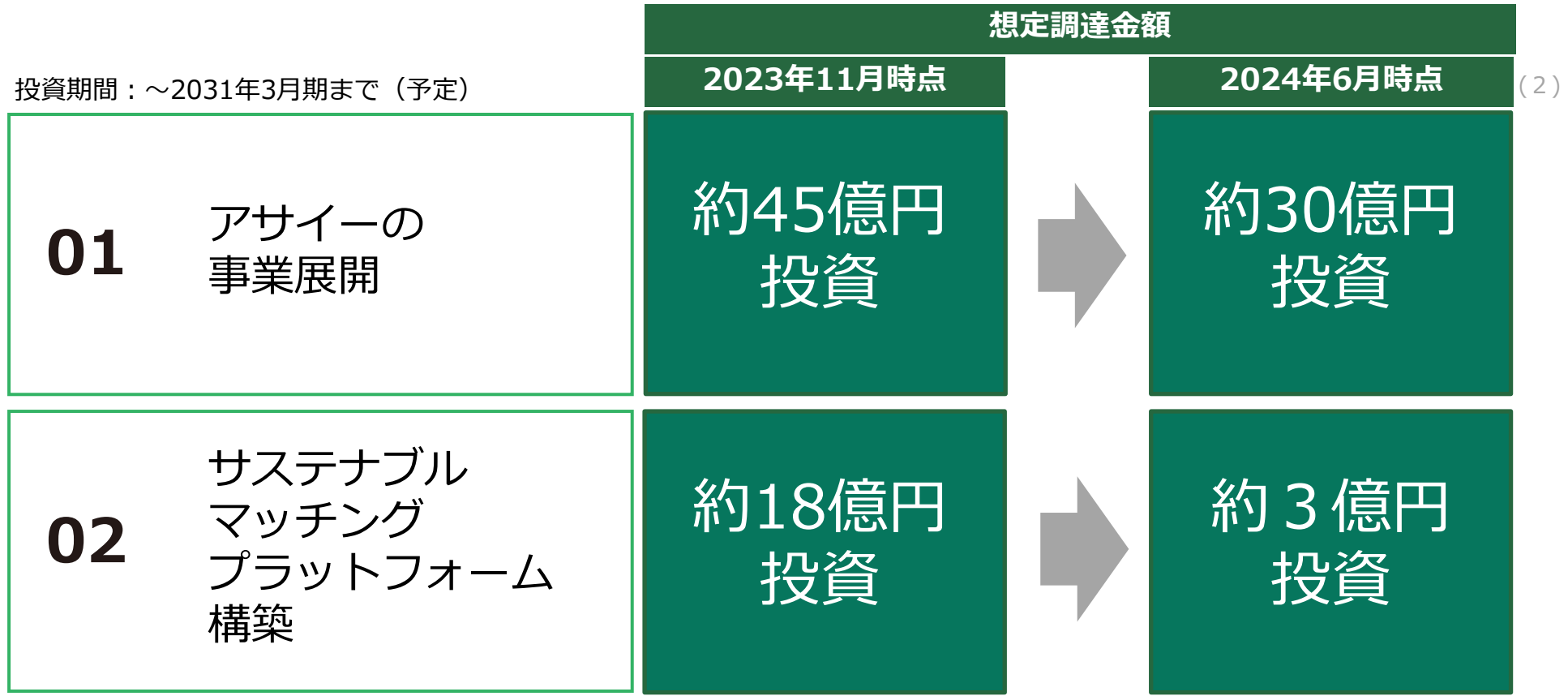
Future Design

国内アサイー事業にリソースを集中させることで売上高増収と、アサイーの海外展開による売上拡大を図る。プラットフォームでの安定した売上・利益を確保することで、中長期的な利益体質強化へ。



中長期計画における成長投資 – 資金使途の変更 –

アサイーの国内需要が大幅に増加していることを背景に、
 当社は本格的な国内市場の拡大を業績拡大のチャンスと捉え、調達資金の使途を一部変更し、
 原料調達資金に充当する変更を実施することといたしました。(1)



(1) 詳細につきましては、2023年11月13日開示の「第11回乃至第13回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行、第14回及び第15回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行並びに定款の一部変更に関するお知らせ」及び2024年6月14日開示の「資金使途の変更に関するお知らせ」を参照下さい。
 (2) 想定調達金額は、現状の調達金額（2024年6月13日時点で236百万円）及び株価動向等を鑑み3,365百万円程度と見込んでおります（当初想定は6,304百万円）。なお、第11回新株予約権のコミットは消滅しております。

中長期計画における成長投資 – 資金使途の変更 –

事業の成長のために、第11回乃至第15回新株予約権の行使で調達した原資をもとに、国内アサイー事業での業績拡大、海外事業展開、プラットフォーム構築を中心に約30億円の投資を行うことで、アサイーを中心としたアマゾンフルーツの拡売、アグロフォレストリーの認知拡大を図ります。(1)

投資期間：～2031年3月期まで（予定）



(1) 詳細につきましては、2023年11月13日開示の「第11回乃至第13回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行、第14回及び第15回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行並びに定款の一部変更に関するお知らせ」及び2024年6月14日開示の「資金使途の変更に関するお知らせ」を参照下さい。

第11回乃至第15回新株予約権（以下、本新株予約権）による資金調達予定額及び用途の詳細は、2024年6月14日時点で以下のとおりとなっております。(1)

具体的な用途	金額（百万円）	支出予定時期
①アサイーの事業展開関連費用	3,015	2024年6月～ 2031年3月
②サステナブルマッチングプラットフォーム構築関連費用	350	2024年6月～ 2031年3月
合計	3,365	

想定調達金額は、現状の調達金額（2024年6月13日時点で236百万円）及び株価動向等を鑑み3,365百万円程度と見込んでおります（当初想定は6,304百万円）。なお、第11回新株予約権のコミットは消滅しております。

なお、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額は、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であります。

行使価額が修正又は調整された場合には、本新株予約権の行使に際して出資される財産の額が変動する結果、調達予定金額は増加又は減少する可能性があります。

また、本新株予約権の行使期間中に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合にも、同様に調達予定金額は減少する可能性があります。

(1) 詳細につきましては、2023年11月13日開示の「第11回乃至第13回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行、第14回及び第15回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行並びに定款の一部変更に関するお知らせ」及び2024年6月14日開示の「資金用途の変更に関するお知らせ」を参照下さい。

なお、想定調達金額は、現状の調達金額（2024年6月13日時点で240百万円）及び株価動向等を鑑み3,365百万円程度と見込んでおります（当初想定は6,304百万円）

01 アサイーの事業展開⁽¹⁾

具体的な使途	金額（百万円）
① 生産拠点及び生産設備並びに倉庫の確保の費用	900
② 出店費用	422
③ 原材料の調達費用	1,443
④ 普及活動及びプロモーション費用	250
合計	3,015

変更点及び削除した項目

アサイーのアジアを中心とした海外事業展開関連費用は、アサイーの事業展開関連費用に変更し、そのうち、生産拠点及び生産設備並びに倉庫確保の費用を900百万円に減額（当初1,500百万円）、出店費用を422百万円に減額（当初1,000百万円）、アサイー等の需要の拡大及び販売促進を目指した普及活動及びプロモーション費用を250百万円に減額し（当初350百万円）、アサイーの造血機能性研究費用（当初500百万円）、造血機能性のプロモーション・マーケティング活動費用（当初350百万円）、アマゾンフルーツに関する新たな機能を探る研究費用（当初150百万円）、当該効能等のプロモーション・マーケティング活動費用（当初350百万円）、物流再構築費用（当初120百万円）、人材確保費用（当初90百万円）を削除いたしました。他方で、アサイーの国内需要増に伴い、原料の必要量が増加していること、原料の仕入単価が上昇していること、また、十分な在庫を確保してもらうために、輸入元であるCAMTA（ブラジル連邦共和国パラ州のトメアス総合農業協同組合）に対して当社の年間の仕入予定額のうち一定額を前金で支払うことが必要となることから、仕入資金の増加が見込まれるため、原料調達費用は1,443百万円に増額いたしました（当初304百万円）。

(1) 今後の具体的な計画やその進捗については、事業計画及び成長可能性に関する事項にて開示してまいります。

(2) 減額、削除した事項につきましては、規模を縮小して実施する他、新たな資金調達、手許資金の状況に応じて自己資金の充当についても検討を行ってまいります。

02 サステナブルマッチングプラットフォーム構築関連費用 (2)

具体的な用途	金額 (百万円)
① プラットフォームの構築及び維持 ⁽¹⁾	200
② サステナブルマッチングプラットフォームのプロモーション活動	150
合計	350

変更点及び削除した項目

サステナブルマッチングプラットフォーム構築関連費用については、サステナブルマッチングプラットフォームのプロモーション活動費用を150百万円に減額し（当初500百万円）、M&A・資本業務提携費用（当初1,000百万円）並びに環境人材の獲得・育成費用（当初90百万円）を削除いたしました。

プラットフォームの構築及び維持費用（200百万円）は維持しております。

(1) 利用企業数やユーザー数、利用料や開始時期などは現時点で未定です。

また、本資料開示時点の事業計画期間内においては、本事業を別個で報告セグメントとするような規模までは想定しておりませんが、中長期的に当社の業績向上に資するものと考えております。

(2) 今後の具体的な計画やその進捗については、事業計画及び成長可能性に関する事項にて開示してまいります。

(3) 減額、削除した事項につきましては、規模を縮小して実施する他、新たな資金調達、手許資金の状況に応じて自己資金の充当についても検討を行ってまいります。

01 成長投資の進捗

アサイーの事業展開

2024年夏以降、日本国内で最大5店舗のテスト店舗出店に向け、ロケーションの選定や商品・オペレーションの確認などを進行中

サステナブルマッチングプラットフォーム

プラットフォーム開発に関する委託先を絞り込み、要件定義を進行中

02 調達済み金額と資金の充当状況

(百万円)

資金使途	調達予定額	資金調達額	充当額	未充当額
生産拠点及び生産設備並びに倉庫の確保の費用	900	236	0	236
出店費用	422		0	
原材料の調達費用	1,443		0	
普及活動及びプロモーション費用	250		0	
プラットフォームの構築及び維持	200		0	
サステナブルマッチングプラットフォームのPR	150		0	
合計	3,365	236	0	236

当社の株価動向により本新株予約権による調達金額が当初の想定を下回る可能性が生じたこと及びアサイーの国内需要の動向を見ながら資金使途、優先順位、支出時期等を検討することが適切であると判断したことから、本新株予約権の調達資金を現時点まで支出しておりません。

(1) 今後の具体的な計画やその進捗については、事業計画及び成長可能性に関する事項及び、適時開示にて開示してまいります。

03 各新株予約権行使の進捗状況

新株予約権	発行数 (個)	行使数 (個)	未行使数 (個)	行使割合 (%)
第11回新株予約権	182,400	64,900	117,500	35.5
第12回新株予約権	182,400	0	182,400	—
第13回新株予約権	182,400	0	182,400	—
第14回新株予約権	187,000	0	187,000	0
第15回新株予約権	187,000	0	187,000	0
合計	921,200	64,900	856,300	7.0

04 第11回新株予約権行使の各月の行使状況

新株予約権	2023年12月	2024年1月	2024年2月	2024年3月	2024年4月	2024年5月	2024年6月
第11回新株予約権	2,600	11,000	5,000	23,800	4,500	16,500	1,500
累計	2,600	13,600	18,600	42,400	46,900	63,400	64,900
(参考：想定行使累計(個)) ⁽¹⁾	6,290	14,676	23,061	33,544	41,932	52,414	54,511
(参考：行使進捗(%)) ⁽²⁾	41.3	92.7	80.7	126.4	111.9	121.0	119.1

(1) 発行当初、コミット条項として付していた20ヶ月での行使を想定した場合の行使見込み数

サステナビリティの取組み

Appendix.



SDGsやESG関連プロモーション、及び研究開発でアプリケーションの付加価値向上と調達最適化を進め、企業価値の源泉は『ヒト(人材)』であり、人材を資本として捉え、人材価値の最大化へ向けた取り組みを行う。



人材獲得

効果的に優秀な人材を見極め、引き付けるための採用戦略を策定。社内環境の改善整備で定着を図る。



プロモーション

サステナビリティレポート2023を公開。今後求められるコーポレートブランディングの強化。



研究開発

アサイーの機能性研究を継続。アマゾンフルーツの品質を保ちつつ、アプリケーションの開発も実施。

アグロフォレストリー原料の使用を通して、累計450,000トンのCO2削減を目指します。(1)

フルッタフルッタでは、アグロフォレストリーの多様性栽培に関わることで、これまで経済の通例であったモノカルチャー栽培が如何に自然と逆行する手法であったかを痛感させられてきました。そして、従来の農業が自然資本を搾取する経済活動であったのに対し、アグロフォレストリーは自然資本を保全し回復させる未来型の農法といえます。

従来の資本主義に対し、限りある自然資本を中心に据えたのが「自然資本主義」です。(2) その生産性の改善と回復に重点を置いた新しい資本主義といえます。

私たちは、事業活動を通してアグロフォレストリーの発展に貢献していく中で、アグロフォレストリー概念ともいえる「自然と共に生きる」を広め、この新しい経済メカニズムを日本国内及び世界に提唱し、経済と環境が共存共栄する持続可能な社会を実現することを目指し、上記目標設定と致しました。



(1) 目標値は、中長期計画で見通している 2031 年 3 月期までの売上高（取引高）から算出したアグロフォレストリー原料の調達量に基づき、そこから得られる CO2削減量を創業時から累計して算出しています。なお、2024年5月末時点では 63,000 t を削減している見込みです。

(2) 自然資本：植物、動物、土壌、鉱物、水、大気など、自然によって形成される資源のこと



リスク情報

Risk Information

成長の実現や事業計画の遂行に重要な影響を与える可能性のある、主なリスク及び対応策は以下の通りです。(1)

内容	リスク情報	顕在化の可能性 / 時期	顕在化した場合の影響度	対応方針
<p>アマゾン フルーツの 仕入れ</p> <p>CAMTA 依存について</p>	<p>当社のCAMTAからの仕入比率は、製品売上の7割以上、商品売上の9割以上。当社事業活動は、CAMTAからの仕入を前提として行われています。</p> <p>原材料価格の引き上げ、本地域における自然災害などで、CAMTAから計画通りに仕入が出来ない場合、当社の事業に影響を与える可能性があります。</p>	<p>中/中長期</p>	<p>中</p>	<p>アグロフォレストリーの特徴である多様性栽培により、特定作物の被害を他の作物で充当することが可能です。</p> <p>非常時に対応可能な最低限の安全在庫計画により、原料の確保、製品の備蓄を実行し、不測の事態にも在庫確保を努めます。</p>
<p>為替相場の 変動について</p>	<p>当社は、CAMTA及び海外OEM工場への製商品代金の支払いはドル建てで行っており、為替相場の変動の影響を受けます。</p> <p>為替相場の変動が短期間に乱高下した場合には、当社の事業に影響を及ぼす可能性があります。</p>	<p>高/短中期</p>	<p>高</p>	<p>ドル調達の実施を検討しています。</p> <p>最低限の値上げ対策を検討します。</p>

(1)その他のリスクについては、有価証券報告書「事業等のリスク」をご参照ください。

本資料におけるご説明に含まれる将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされ、もしくは算定されています。また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。

将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や国内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。

本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社により何らかの行動を勧誘するものではありません。

次回の本資料更新は2025年6月頃の開示を予定しております。

<本資料に関するお問い合わせ先>

E-Mail : ir@frutafruta.com

<http://www.frutafruta.com>

